

都林泉名勝圖會

二



所有	格價	期同	書部
			五
			一
			二

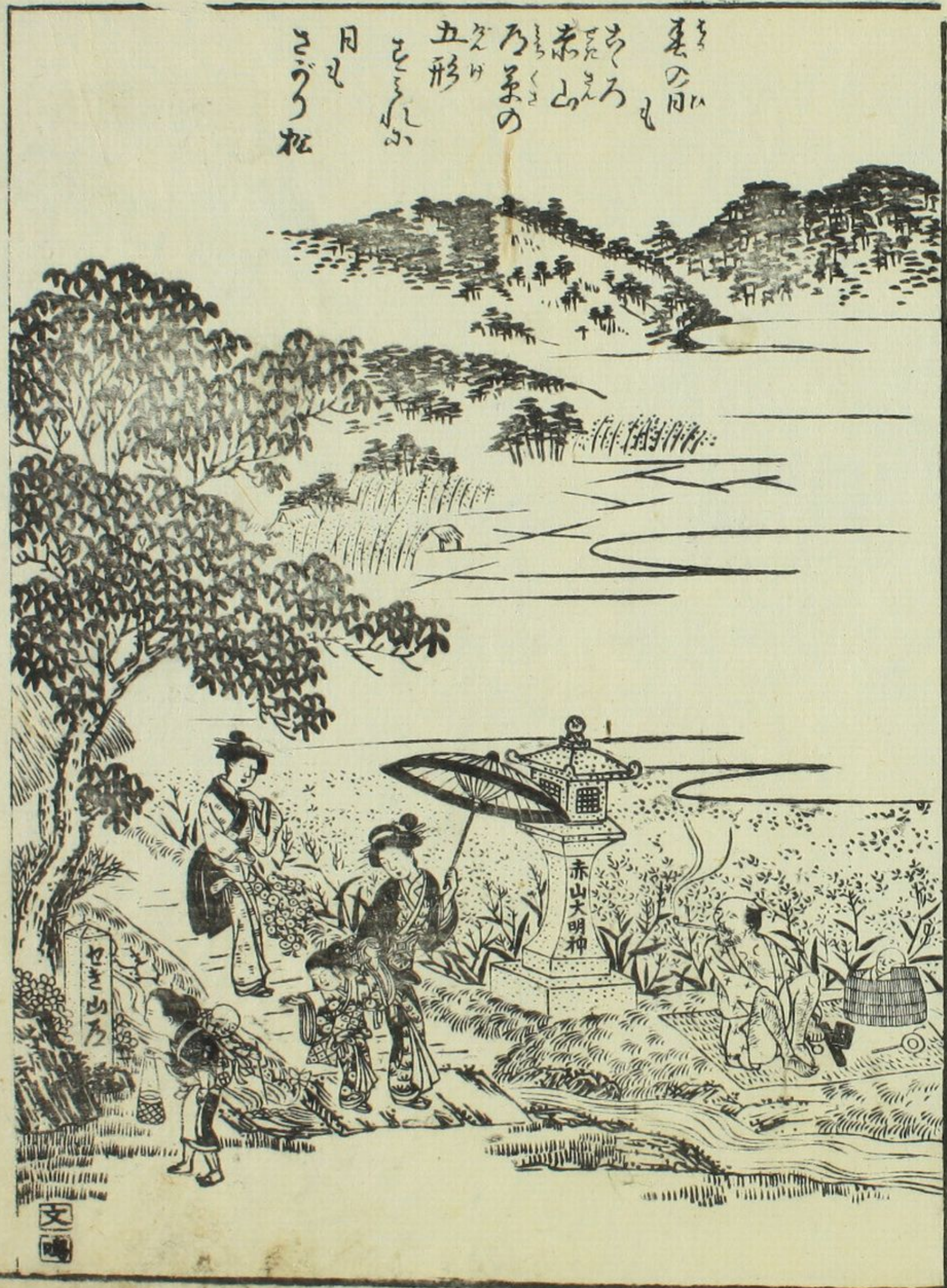
都林泉名勝圖會卷之貳

目錄

- 赤山社 香山水 金神社
- 什寶
- 義政公御式目
- 氷室古跡
- 吉田山遊宴
- 南禪寺 方丈什室 虫干作
- 藤在衡公別業蹟
- 聽松院 菅林壺 勅使石
- 牧護菴
- 南禪寺湯菽腐店
- 陽成院陵
- 慈照寺 東求堂 茶水井
- 東山殿御會和秋
- 河合納涼
- 中山忠親公旧蹟
- 西翁院及古庵
- 南禪院 心字塔
- 菩提樹院址
- 金地院 同ク 瑠璃記 山堂
- 和恩教院 方丈 説法石
- 冷泉院陵
- 銀閣圖
- 集芳軒
- 惺窩先生幽居蹟
- 卜部家齋場跡
- 光老寺 瑠璃平水
- 龜山法皇古墟
- 寶莊教院址
- 歸雲院
- 白河雜宮
- 御忌新相
- 後一條院陵



三



粟田院
 圓山
 端寮花洛為清阿弥
 勝興庵正阿弥
 皇太后妍子塚
 高慶寺
 岡山堂
 小方丈
 祇園社
 祇園御連洗躰物
 巖阿弥
 長唄梅

青蓮院
 多藏庵春阿弥
 多福庵也阿弥
 將軍塚
 長樂寺
 方丈
 遠州般若堂
 双林寺長喜庵
 新漢
 靈山叔阿弥
 下河原女伶會

大谷寺
 延壽庵連阿弥
 長壽庵阿弥
 上東門院塔
 蔡家園院
 西田
 傘亭
 文阿弥
 珠阿弥
 正法寺



赤山神祠

徳聖院邑の
心の方あり

いみじく僧の安惠慈覺大師の願命小僧

あつ小社と建る

元亨
釋書

社頭の林泉玲瓏なり特小辺なり官家なり

修補ありて神殿壯麗とあり

世小勝宅の附當社の神と受く
張るひひう一庵土の文命山に樹

比叡山小伽藍と建立一王城の
鬼門金神の守護とあり由縁

東求堂の中央に相阿弥のま

慈照寺銀閣

足利義政公の別荘

の苑をて教有る四圍半其中の遠柳の張附梅の画古法眼の巻帳巻の

腰障子琴瑟書画の圖持世永納の蘭水仙相阿弥の巻東向

母義政公薙髪の本像と安延徳二年正月七日不亮のひ慈照院

殿准二宮喜山之居士と稱と台齡五十六の竹小若松相阿弥圖一方丈の

中の間海友若の仙人盡東の間逍遙軒の山水西の間山水且

しく持世持世也の巻襖土佐光興扇相阿弥の巻薄小金銀

の砂子と濃ち希代の名茶茶水井

堂後あり近世の造立と維明和尚
の梅兵月溪の画とあり

足利將軍義政公

永亨八年正月二日小誕寶徳元年四月廿九日征夷

大將軍小任亨徳二年二月小從一位叙同年十一月源氏長者と淳和

并學兩院別當小補次應仁元年山名宗全威と着ひ管領細川勝元也

合我半幸さけ時勝元主上上皇と途より二種神畠成持く室所

若所所より若あり將軍宗勝元と捨く意と宗全も幸り天子成

扱て日々圍我とは騷擾小南禪寺相國寺及寺院多焦土と其外洛

中洛外諸侯等氏家等兵火小罹との事かあり應仁乱のいひ

け附本朝旧記諸家文書兵變小焼亡終久とり幸教と是後同六年之明

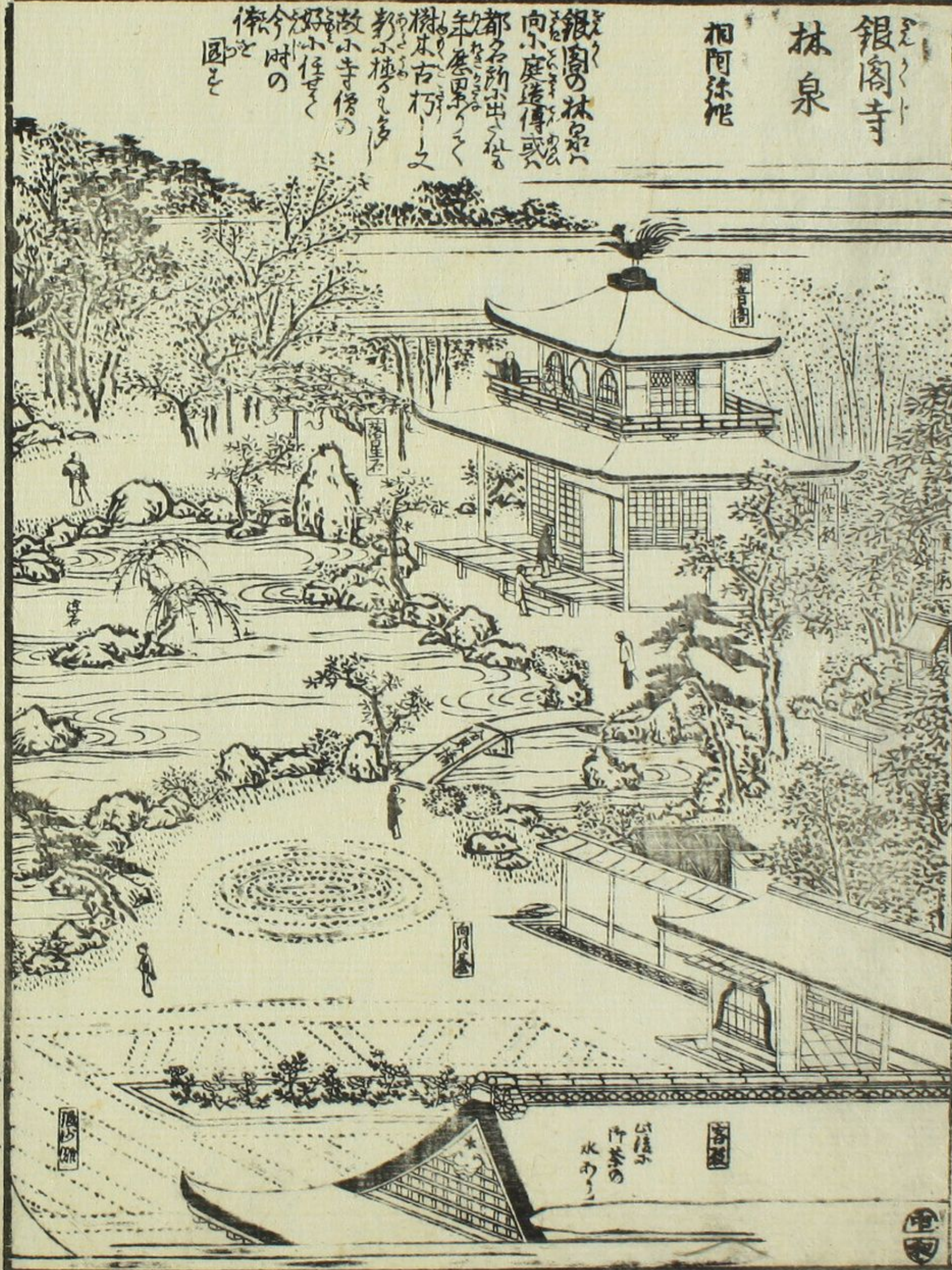
國の勅令れ下と求む應仁元年より十年まり諸人名み其領國と守て

割據の形勢あり尚山名細川の徒洛中小對陣次將軍と足利義尚公小讓り

東山慈照寺小銀閣と建く古畧名画と號ひ芳若名成喫く幽棲次世より

東山殿のいひ延徳二年正月七日征夷大將軍從一位准二宮源義政公

薨と五十一年太政大臣公賜侍



銀閣の林泉
 向小庭造傳或
 都名所出な
 年々更々く
 樹木古朽く
 新木植ふ多
 故小寺傍の
 好小住く
 今時の
 休園と

銀閣寺
 林泉
 相阿休能

舟
 水
 舟



茶の湯
 月待の
 長
 若の
 折枝
 有

東山相君茶泉碑

東山相公嘗好茶事東求堂後園五十步許有泉今
 猶存焉乃其所嘗汲云極清潔大早不固也吳出北
 者吉敬仰止遺蹤屢來寓寺朝夕把注以充萬永之
 賞因立碑其側表焉使余紀之銘曰
 匪深匪廣 侯盈侯冲 雲芽之賞 千歲是同
 寛政八歲丙辰春 前相國寺蕉中願常撰并書
 茲茗待友
 やらりかゝ東のふれ茶寺とてす川風の聲とあふり
 ちたつあれはふもこゝん古寺は朝の志のふれ休をわかれや

吉孔東翁設茶談於銀閣集芳軒一日
 興諸客應其招席上賦贈
 六如慈周
 開爐邀酌客勝踐興逾嘉厨辨遠巡酒筵寬自在茶
 池臺猶爾跡宗拓付僧家譙罷還思古霜林錦繡音
 茶の席ふぬのふる月やかんろ
 茶のつへと松かき〜〜トトマク
 急延
 金子義篤

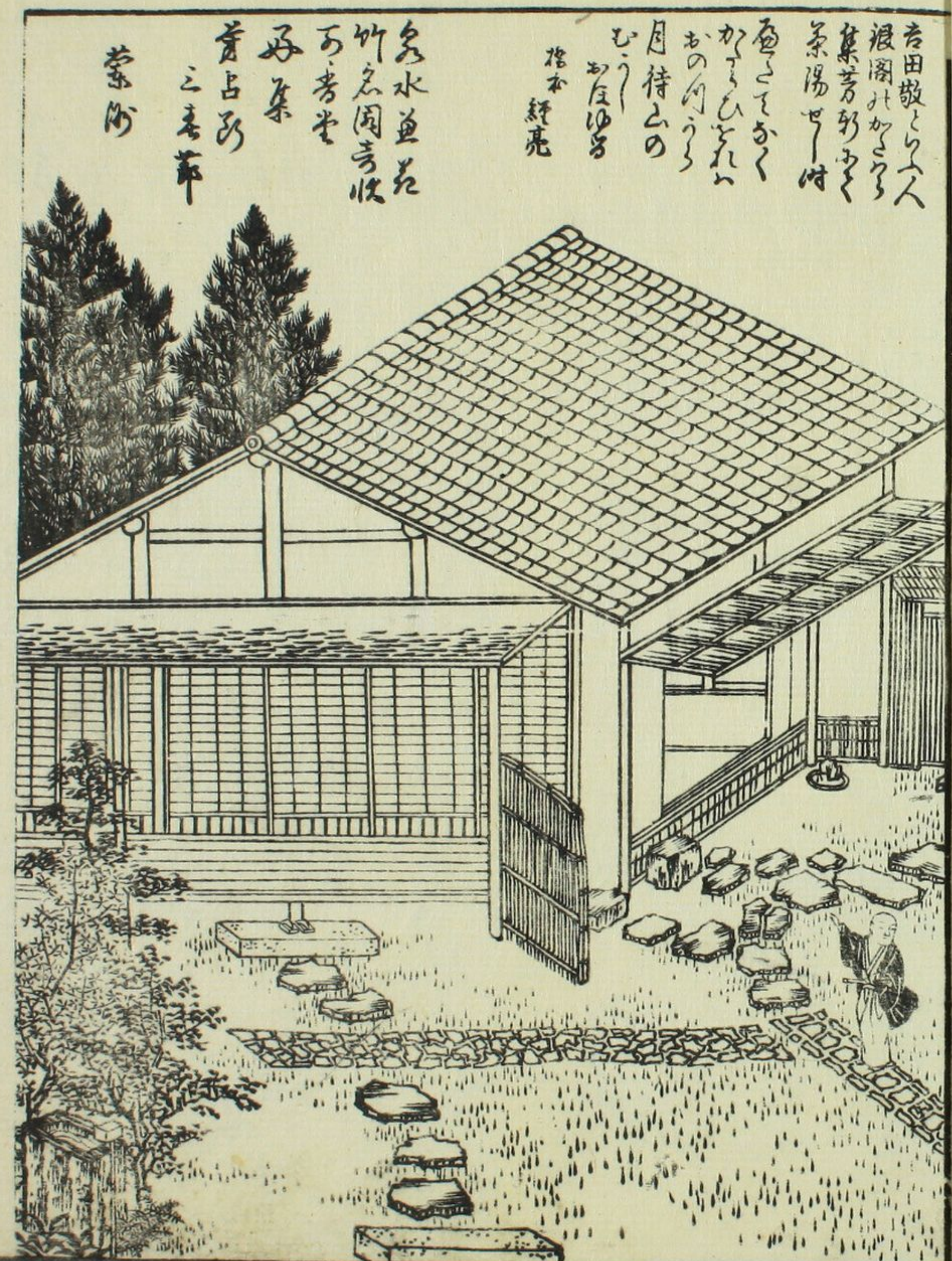
この茶はあつ〜世のふれ杖の色をかりえてるふのふひける
 世の塵をつれはま〜のむかひをむかひては休をわかれや

銀閣寺
總照軒
集芳軒



吾田敬と一人
浪園はかた
集芳軒あり
茶湯あり付
庭とてかく
かゝるひとれ
おのりう
月待ふの
むい
お屋敷
格本
経亮

名水並花
竹名園芳
可考也
好茶
首占所
三喜節
茶所



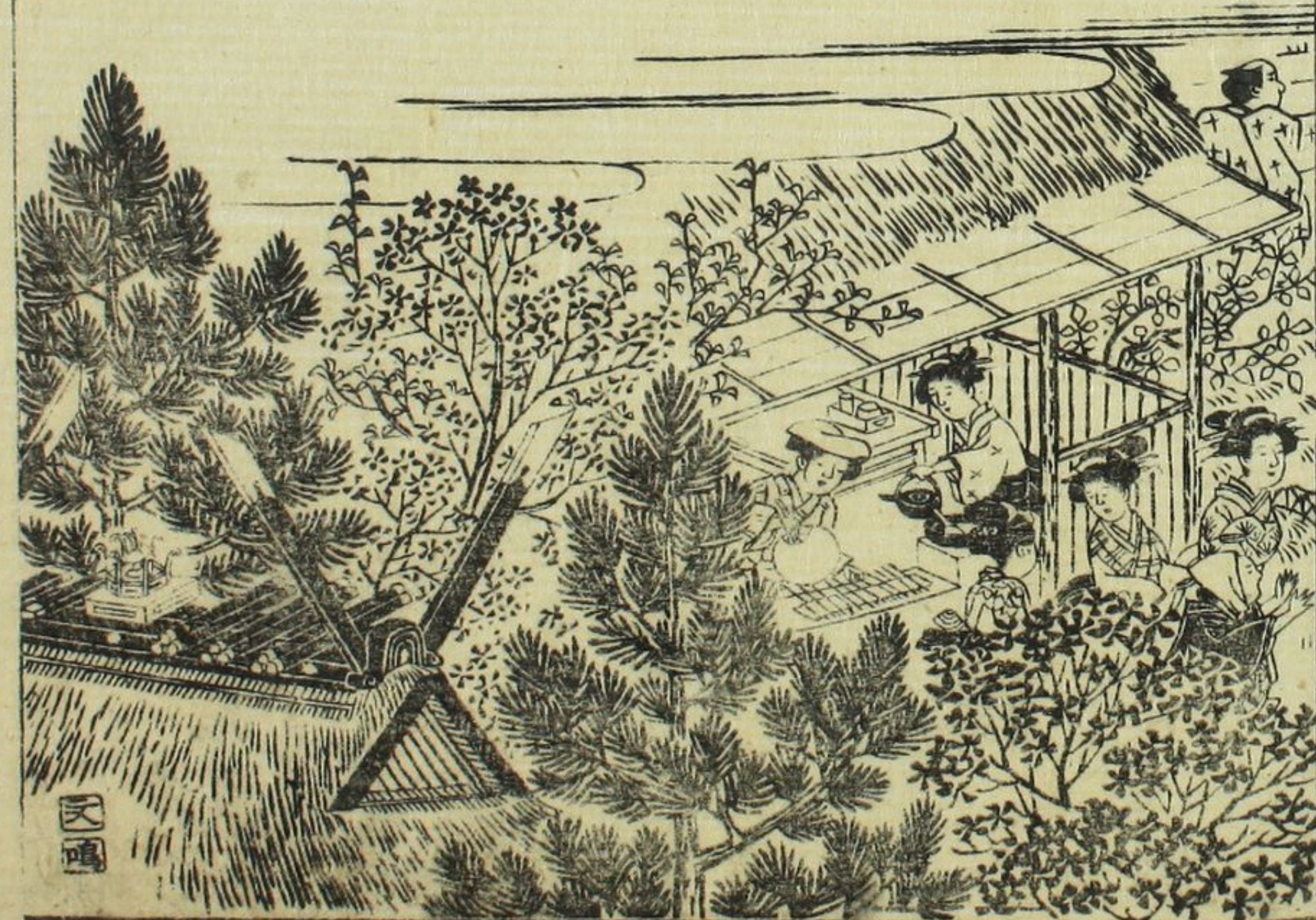
そなたやぐくそ下流とさうの小川と云ふ所の社は西子尻子
古哥ふより名不きりる所の社と云ふ所の東ふありて
に若本橋本の社あり斤置の森と云ふ所の東ふありて
西ふ若本橋本の社あり斤置の森と云ふ所の東ふありて
勅使先ツ下鴨の社に銘記ありて四月中の酉此日の葵祭
及び修人礼多の社に銘記ありて四月中の酉此日の葵祭
勅使先ツ下鴨の社に銘記ありて四月中の酉此日の葵祭
下鴨と云ふ所は古伝云ふ所の下鴨の社に銘記ありて
及ひ石清水の放生會の勅使先ツ下鴨の社に銘記ありて
人々も好んで参りて参りて参りて参りて参りて参りて
ついでと云ふ所の事と云ふ所の事と云ふ所の事と云ふ所の事
出現しと云ふ所の事と云ふ所の事と云ふ所の事と云ふ所の事
氏人々の事と云ふ所の事と云ふ所の事と云ふ所の事と云ふ所の事
そなたの事と云ふ所の事と云ふ所の事と云ふ所の事と云ふ所の事
そなたの事と云ふ所の事と云ふ所の事と云ふ所の事と云ふ所の事

山茹
月のをさみかや河原痛えて子もそな川夢ゆゆ之
行園やみくたる原れ葵くさくさかきて月夜をかきん
平和亭
後香院
山茹

鴨 祠 春 望 鴨 祠 前 崇 祠 神 武 天 皇
緑 鴨 江 開 鳳 關 東 一 林 春 色 鬱 葱 葱
何 年 銷 歇 舊 齋 院 終 古 依 然 御 祖 官
大 岳 北 懸 千 岩 秀 清 流 南 合 二 川 通
典 來 有 意 縣 村 酒 類 是 杖 頭 錢 未 空
水 久 一 月 長 明 瘦 ざ ざ 一 む 如 泉
夕 立 や 雙 六 の 筈 鴨 乃 川 小 導
かそりゆく程の小川や旅を夢 又素

惺窩先生幽居蹟 市原村の西ふありて姓ハ藤原名ハ肅字ハ敏夫北肉山人と
家と称す又弟子林學士
祠堂ニ瀨村あり
水室古跡 四箇所あり一ハ水室村一ハ桑柘堂一ハ高野村一ハ松ヶ崎
延善式云々小野 静原市原 水室村云々
中山忠親公別荘蹟 眞如堂の西ふありて薩戒記に見ゆ又中山白翁ハ百鍊抄
小野又源頼朝の古跡及中山堂山標記に見ゆ
ト部家齋場所 石田山小あり原陽邊衛室町の私第あり事ハ長興
名神 遍懸みか卿の事と云ふ所と云ふ所と云ふ所と云ふ所と云ふ所
日録 見ゆ天正年中勅し八神殿と云ふ所と云ふ所と云ふ所と云ふ所と云ふ所
八月 勅し神祇官代と云ふ所と云ふ所と云ふ所と云ふ所と云ふ所

九月葦香
能引入
烟蘿巖
徑起紅塵
松林自絕
磨慶跡
新見綺
羅雲外新
皆川允



吉田山遊宴

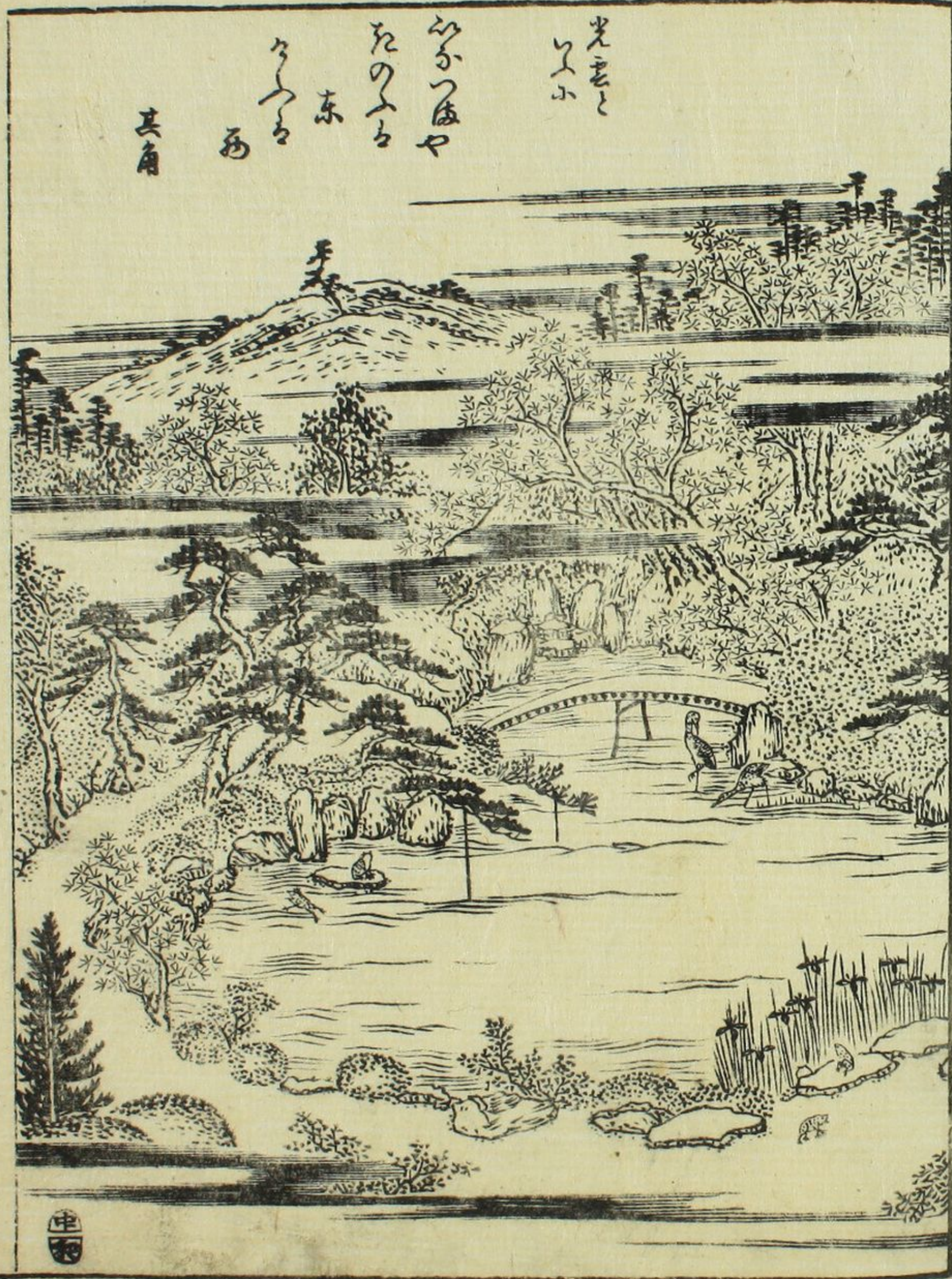


黒谷西翁院
 反古菴
 藤村彌軒
 化



陸世
 可
 子
 八
 美
 濟





南なん禪ぜん寺じ方丈ほうちやうの林泉りんせんの奇石きせき巨巖きよん礎いしを夢ゆめ七澤しちさくを闢ひらくの仙境せんじやう之
 方丈ほうちやう東向とうかうの鳴龍めいりゆうの圖ず花はな多おほ等らの古法こほふ眼まなこ元信げんしんの筆すゐ中なかつ間ま廿四にじゅうし孝かうを
 將まさ也や永德えいとく西向さいかう同どう筆すゐみりく花はな多おほの画え之西表さいへい一いつ之間のま古法こほふ眼まなこ
 同どう其次つぎの間ま次つぎ之間のま共ともみ竹たけ小虎せうこの画え世よ小せうあはれ水みづ石虎いしこといふ
 何なに也や將まさ也や探幽たんゆう此こゝ筆すゐ之

○南なん禪ぜん院いんの南なんの方ほうあり 龜山きんざん法皇ほふわうの離宮りきゆう之中央ちゆうかう 龜山きんざん法皇ほふわう宸影しんえい 表あは廣ひろ三

先功せんこう徳主とくぬし龜山きんざん太上たうじやう覺皇かくわう崩殂ほうそ 此堂こゝ内うち之間のま俱ともみ將まさ孫まご常信じやうしんの画えあり
嘉元二年九月十五日

龜山きんざん法皇ほふわう御廟ごぼうの南なんの上方じやうほう所ところあり忠院ちゆういんの林泉りんせんの東南とうなん鮮せんみりて實まこと小
 日月にちげつ之の扶助ふじゆするの靈境れいけい之の拆と山さんの寺てら記きみ云い弘安こうあん年中なちゆう 龜山きんざん上皇じやうわうあり又
 離宮りきゆうと營いく仙居せんきよの殿との后宮ごきゆうに喜捨きせつし寺てらとさ大明だいめい國こく師し成
 住職ぢゆうしやくし終しゆうふ又また至徳しとく二年七月ににちがつ勅しゆくし禪刹ぜんさつ五山ごさん之上のじやうと称なづ建武けんぶ元年
 十月じゅうがつひを八園はつえん大曆たいりきふんくあり。金地院きんぢいんの五山ごさん僧録そうろく司しと称なづ建武けんぶ元年
 林泉りんせん佳境けいけいありく名叢なそう多く心こゝろの文字もじふ双ふた並ならみしを信しん小鎮せうぢん守昭しゆせう堂

林二五

あり南方なんぽう小 御宮ごみやありひ方丈ほうちやうの南面なんめんありく中之間なちゆうのま仙人せんじん盡じんた右みぎとみ
 花はな多おほみり將まさ也や尚信じやうしんの筆すゐ之具外ぐげ崇院しゆういん玲瓏れいろうとくく山さんの佳境けいけいあり
 南なん禪ぜん寺じ方丈ほうちやう虫干むしご之の体たい

出山しゅつざん釋迦しやくぢや 逐しゆく菴あん

東とう之間のま 將也まさや永德えいとく筆すゐ

小十六善神

山水	仇英
觀音	牧溪
山水	仇英
觀音	唐画
卓御書之間 永德筆	

學

大十六善神

琴

碁

書

畫

孫通

西之間 永德

康富記

勸修寺汗廣卿筆

藏六十一

文殊

釋迦

思恭筆

晉賢

手鶴之間 古法眼

七朝園師香陽最嶽和崇

盧柔達磨 南院園師 自畫 護

十六善神

眠鴉之画 萬國植

後之間

乃身主馬

象画 思恭

夢窓園師傍

羅維漢 聖居之竹

普明園師 頂相

臨濟禪師 頂相

百丈海師 頂相

草堂 景賢

木老園師 頂相

日梅 常信

竹鶴 存信

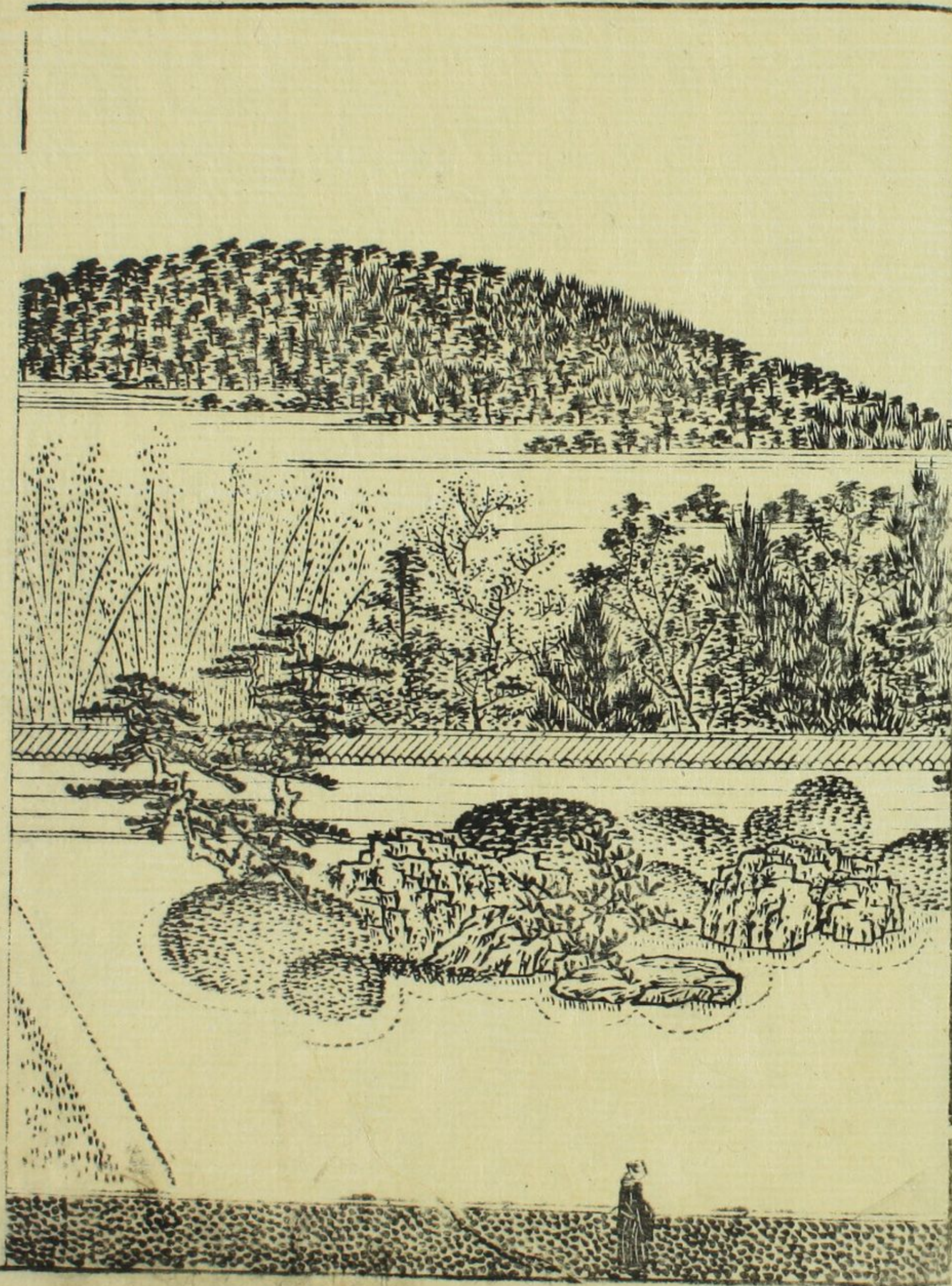
龜山法皇宸像

龜山法皇宸翰 和衣

鳴滝間 古法眼

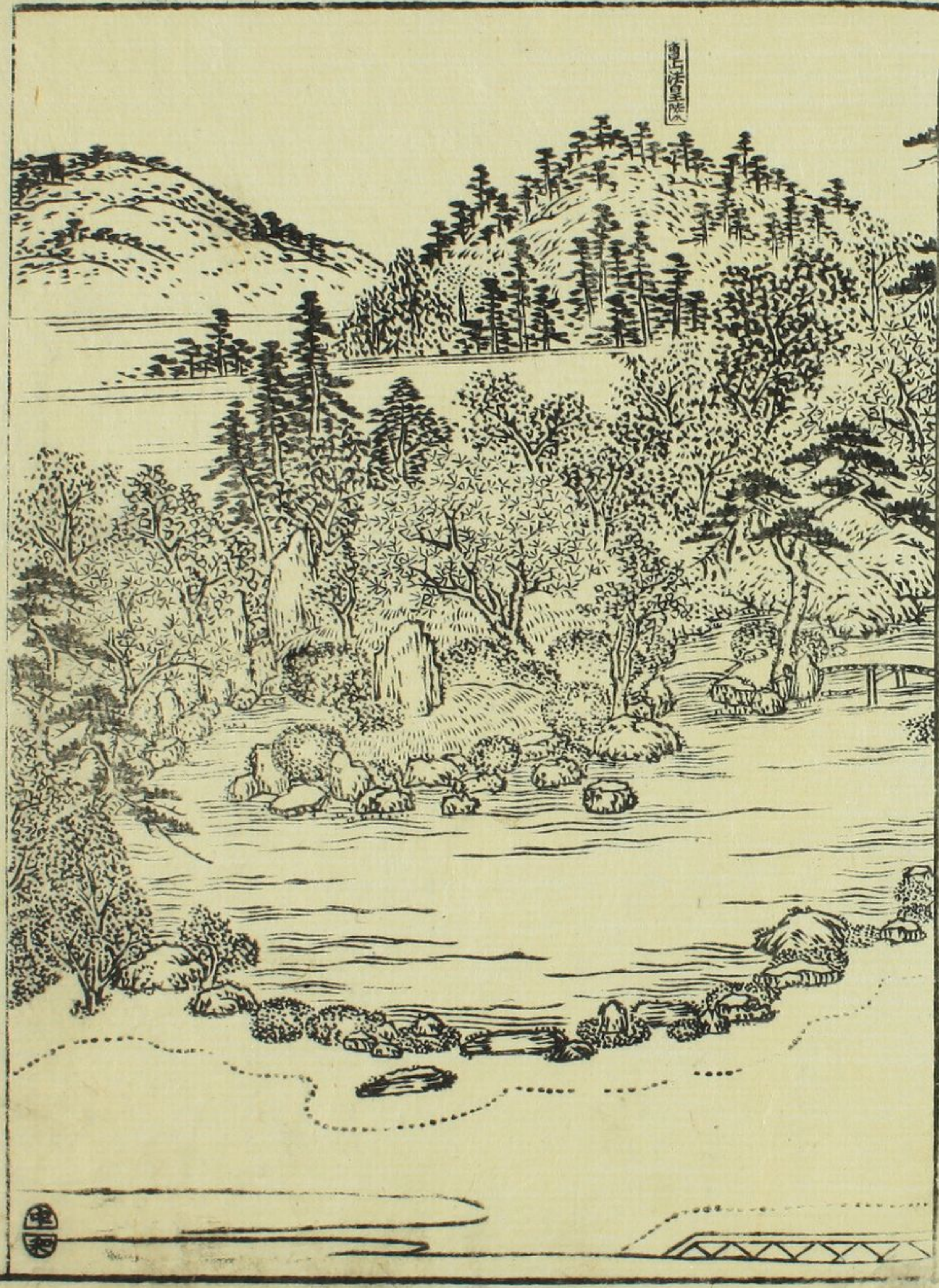
法醍醐天皇宸翰

竜淵室之額 法隆成院宸翰



南
方
禪
寺
丈



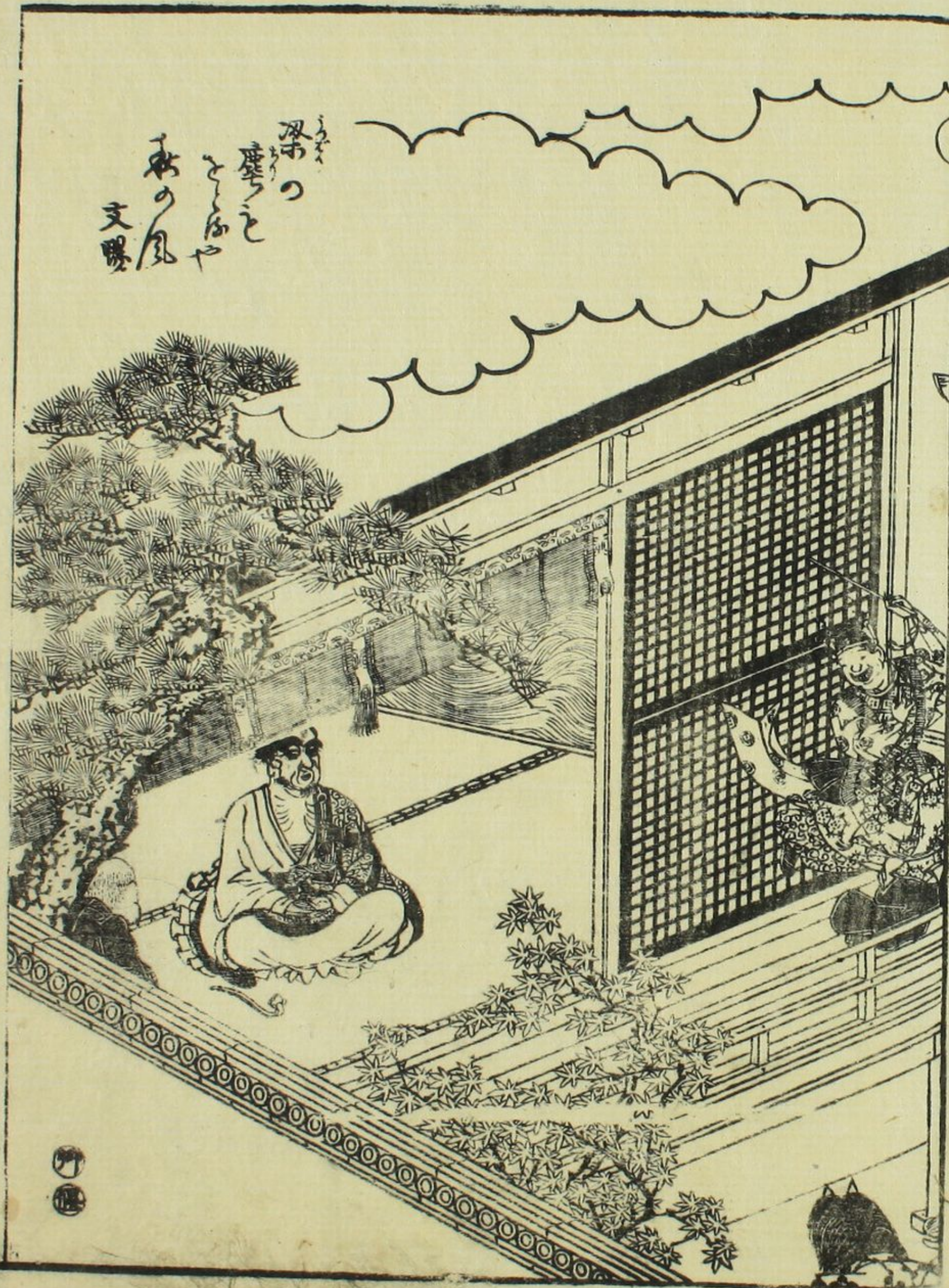


龜山法皇陵



南禪院
龜山法皇
古墟

林三十九



南禪寺什寶の中菅神の鏡銘 一幅 烏樞沙摩明王 一幅 永仁七年
龜山上皇の勅書正安以後綸旨國宣院宣建武中官符足利家古證文
及將軍家の施捨文等あり其外塔頭古書軸を藏ひる事約百通
ありびを著るる不深浪なり。塔頭總松院の林泉風色幽雅あり
て庭石礪碯の水鉢あり又菅神夢想の名松あり老木の丈樹あり
ありしう近年衰枯し朽し故小植継あり其銘曰

南禪寺聽松院者惠鑑禪師所住也曾傳
一夜夢 北野神君賜以殊所珍賞松一
株覺後感銘無己乃早洒掃庭内土地待
之果自菅家贈一盆松與夢所見合云此
蓋我 景祖也然不知其為誰向者予有
故遊于此寺賞觀有年矣青蒼蒼鬱茂株
根數圍實是數百年物也寬政辛亥今

住持正巖禪師乞予詩之曰賦一律應其
需

青松百尺接天開 曾入高僧夢裏來
林下誰知奉 神託庭前偏好挺
凡材計年風外潮音起 仰
德雲間龍影回 元
自奇句在人口 千秋併賞賦中梅

特進 菅原胤長

藤在衡公別業蹟 神樂岡の北あり拾芥抄不見えり藤山莊脚の宅址也
著聞集に記し菅三品の家文ハ本朝文禪に著及惟宗 孝言乃
詩曰 勝地佳名何所感 栗田別業在城東 無題詩出

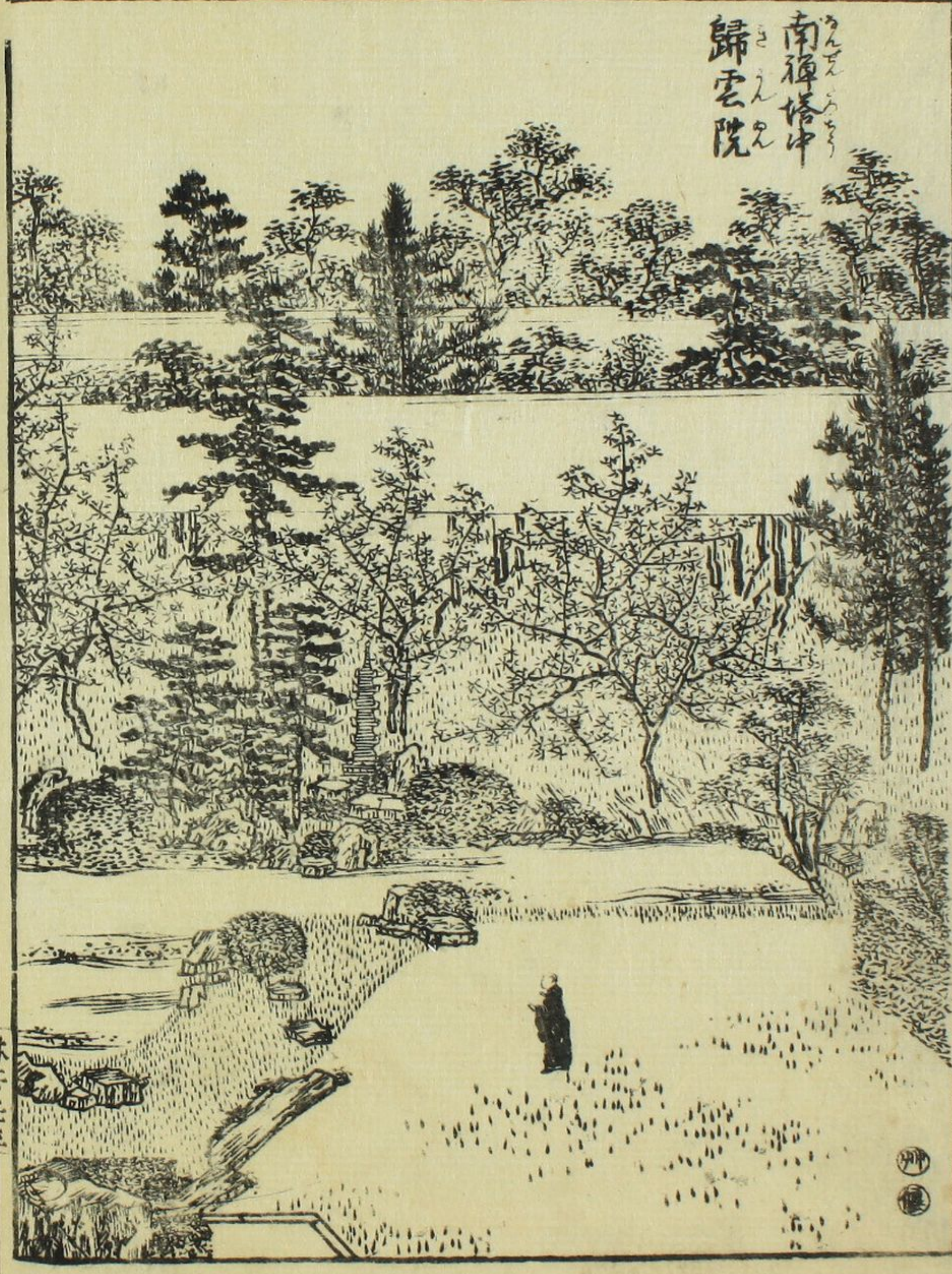
菩提樹院址 神樂里の東あり拾芥抄不見えり百鍊抄云長曆元年
六月二日上東門院菩提樹院を造るる

寶莊巖院址 聖護院村あり長承元年十月香羽上皇勅し建立し
拾芥抄不見えり長承二年三月十九日寶莊巖院を和歌尚齒會
あり藤原教頼よりの上賞し藤原隆輝より盟主なり

百鍊抄に見えり



南禅塔中
 聽松院
 林名相阿弥他
 菅神
 長心石
 垂垂松





南
塔
中
牧
護
菴





真一

南禅
金地院
小堀遠州作

印

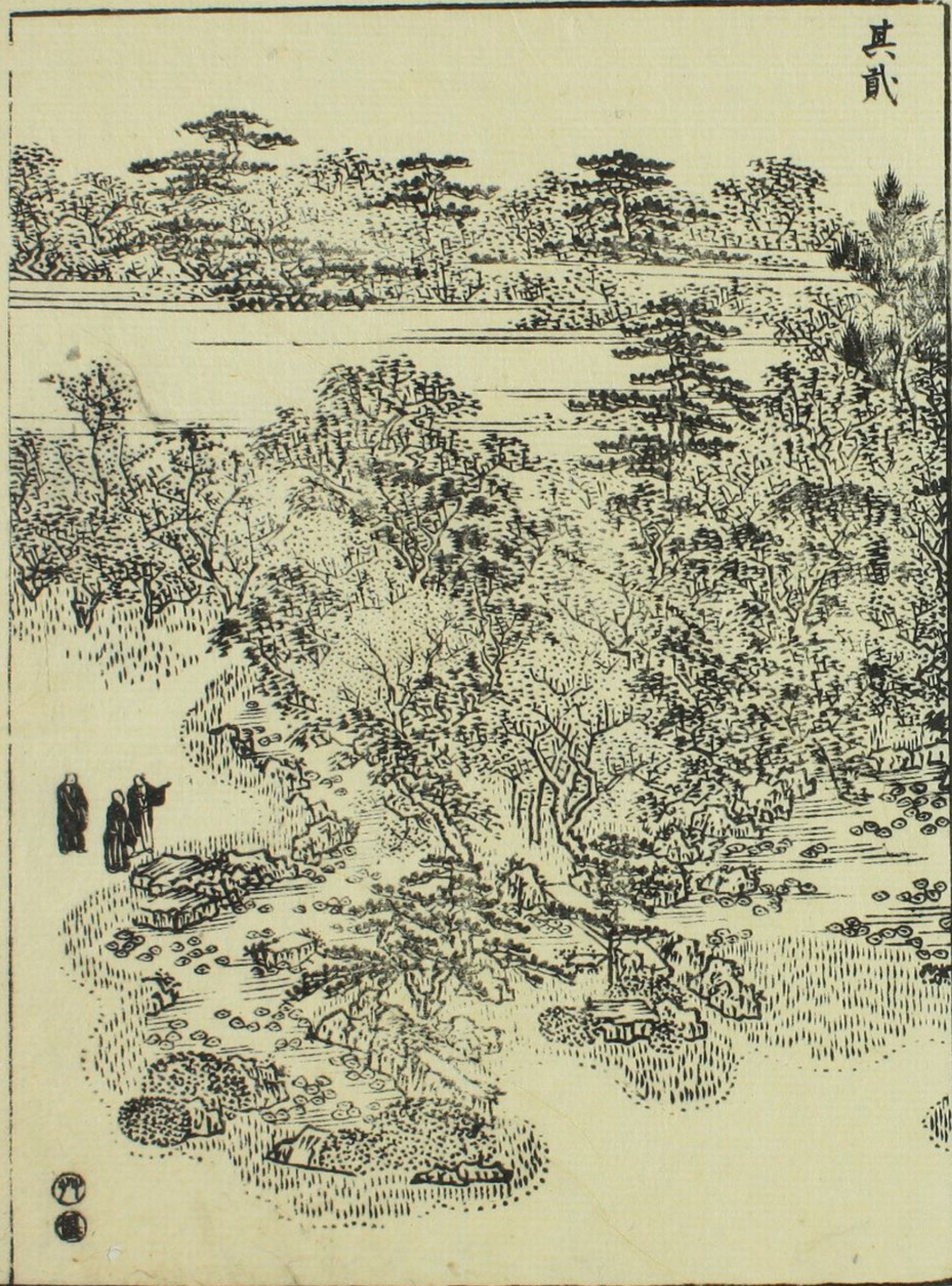
其一



知恩教院
方丈
林泉



其貳



陽成院陵 大曆三年九月太上天皇崩ト中人神樂舞の東に葬リまは

冷泉院陵 神樂岡のやうりふあり今詳るるに寛弘八年十月櫻子の

後一條院陵 長元九年九月十九日神樂岡の東南に葬リまは其後

粟田院 粟田の北字と圓覺寺といふ法和天皇の離宮なり二代實

遷宮し又云元慶五年二月十二日勅し曰愛宕郡粟田院

ハ原是太政大臣藤原朝臣の山莊なり太上天皇諸御寺也

道場とあり額と圓覺といふ又云元慶四年十二月

太上天皇圓覺寺ふおしく崩ト延喜式云圓覺寺料

無題詩云 今來圓覺勝形境 念佛遙期九品蓮 菅原在良

青蓮院 粟田のふありむろ一系大僧正慈圓及び慈道法親王尚院

和恩教院 大谷寺と號けい地むろ一正久寺常在光院白毫

寺太子堂及び釋觀聖人の墓ありあはひら

依境一遷り

志々まといつても人のむねのあてな木のひてとれ止 狼狽窟

かたそ女や京とまきう侍所忌後

所忌の鐘印くや谷の水きく

所忌のかけ淀も鞍馬も平等ふ

松の崎耳ふさく一侍所忌の鐘

町中た櫛分入ふや和恩院

圓山 安書寺といふ吉水大職法院の故墟と云鎮和尚樓中半百總抄

又洛東の住境へ長考老九阿弥。勝興房正阿弥。花洛房清阿弥

又洛東の住境へ長考老九阿弥。勝興房正阿弥。花洛房清阿弥

又洛東の住境へ長考老九阿弥。勝興房正阿弥。花洛房清阿弥

又洛東の住境へ長考老九阿弥。勝興房正阿弥。花洛房清阿弥

又洛東の住境へ長考老九阿弥。勝興房正阿弥。花洛房清阿弥

又洛東の住境へ長考老九阿弥。勝興房正阿弥。花洛房清阿弥

又洛東の住境へ長考老九阿弥。勝興房正阿弥。花洛房清阿弥

又洛東の住境へ長考老九阿弥。勝興房正阿弥。花洛房清阿弥

- ① 玄居亭
- ② 四大塔
- ③ 宇賀廟
- ④ 春陽池
- ⑤ 七星橋
- ⑥ 彩霓橋
- ⑦ 浪影橋
- ⑧ 春眠亭
- ⑨ 天柱峯
- ⑩ 桃源窟



圓山
 多藏房
 其阿弥
 初八眼石
 とん

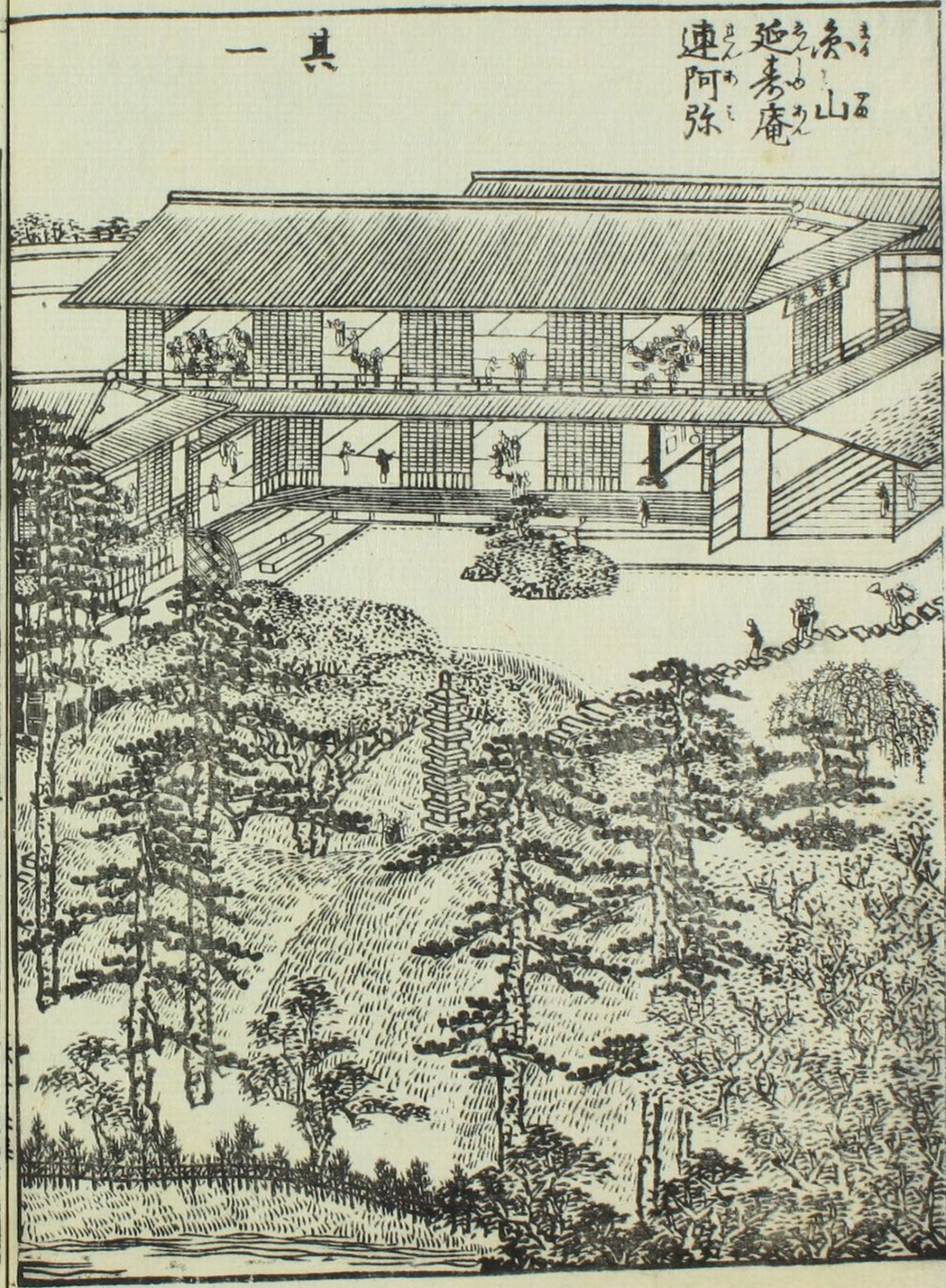




伊勢の
長衣の
法師哉

月夜

山
長

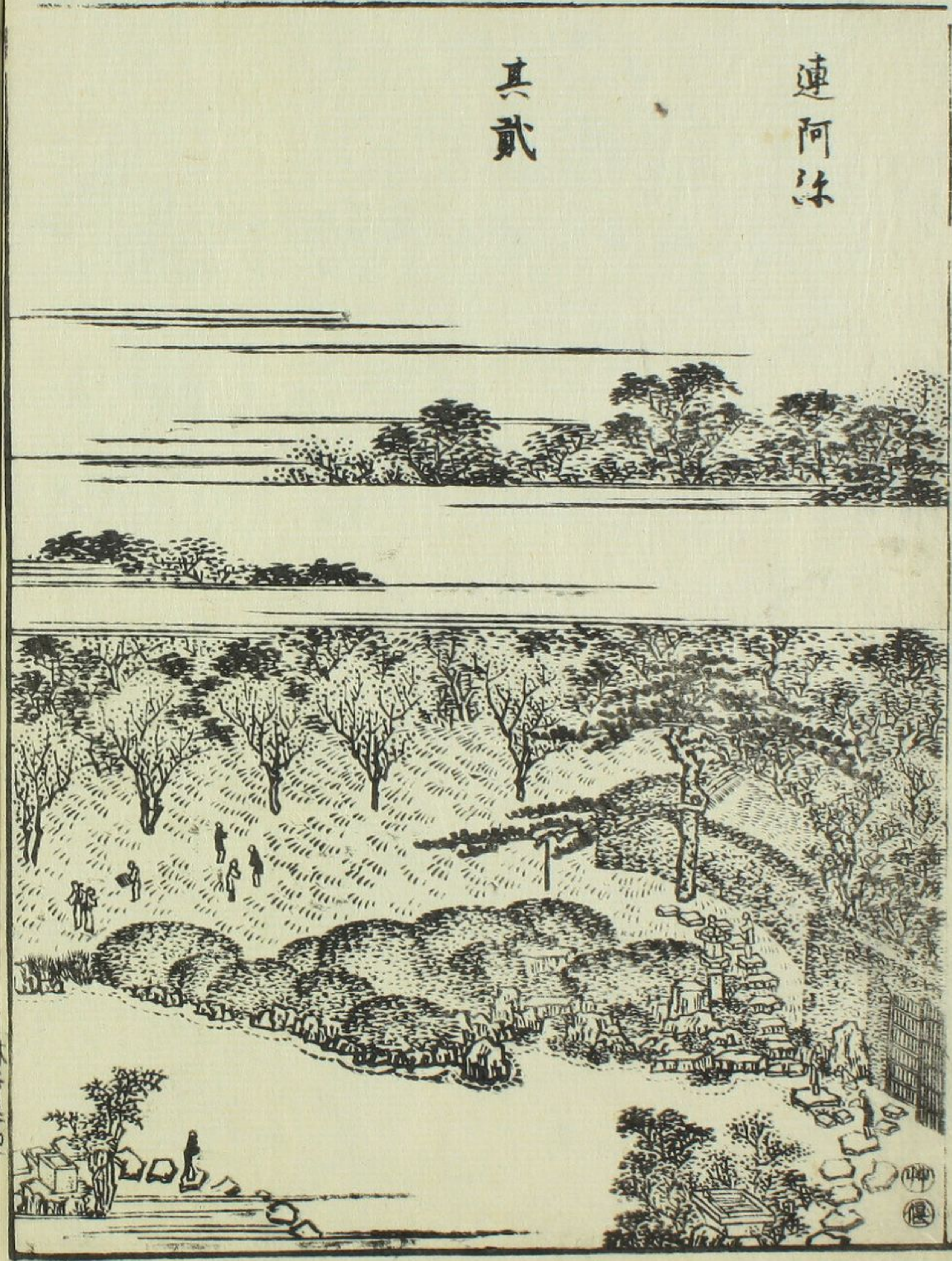


其一

赤山
延壽庵
連阿弥

連阿妹

其貳



將軍家

明應三年十月五日
和漢雜詩曰
送人之日本

洛水城東第五橋
秋風上國思迢迢
將軍塚靜家無難
富士峯深雪未消
鯨海浮杯朝對日
龍官洗鉢夜聽潮
阿師到日若相想
莫惜音書萬里遙

周一居士

上東門院塔

和歌集云
皇太后宇世尊御ひく大谷に送るるは
わかれ君をのちをよも大谷の煙とるらんかけをいん
為嘉四年九月祇園の東大谷小蘇引
孫原氏一條院乃皇后
遺長公の女なり今これ世に
孫原氏三條院の皇后
遺長公の女なり今これ世に

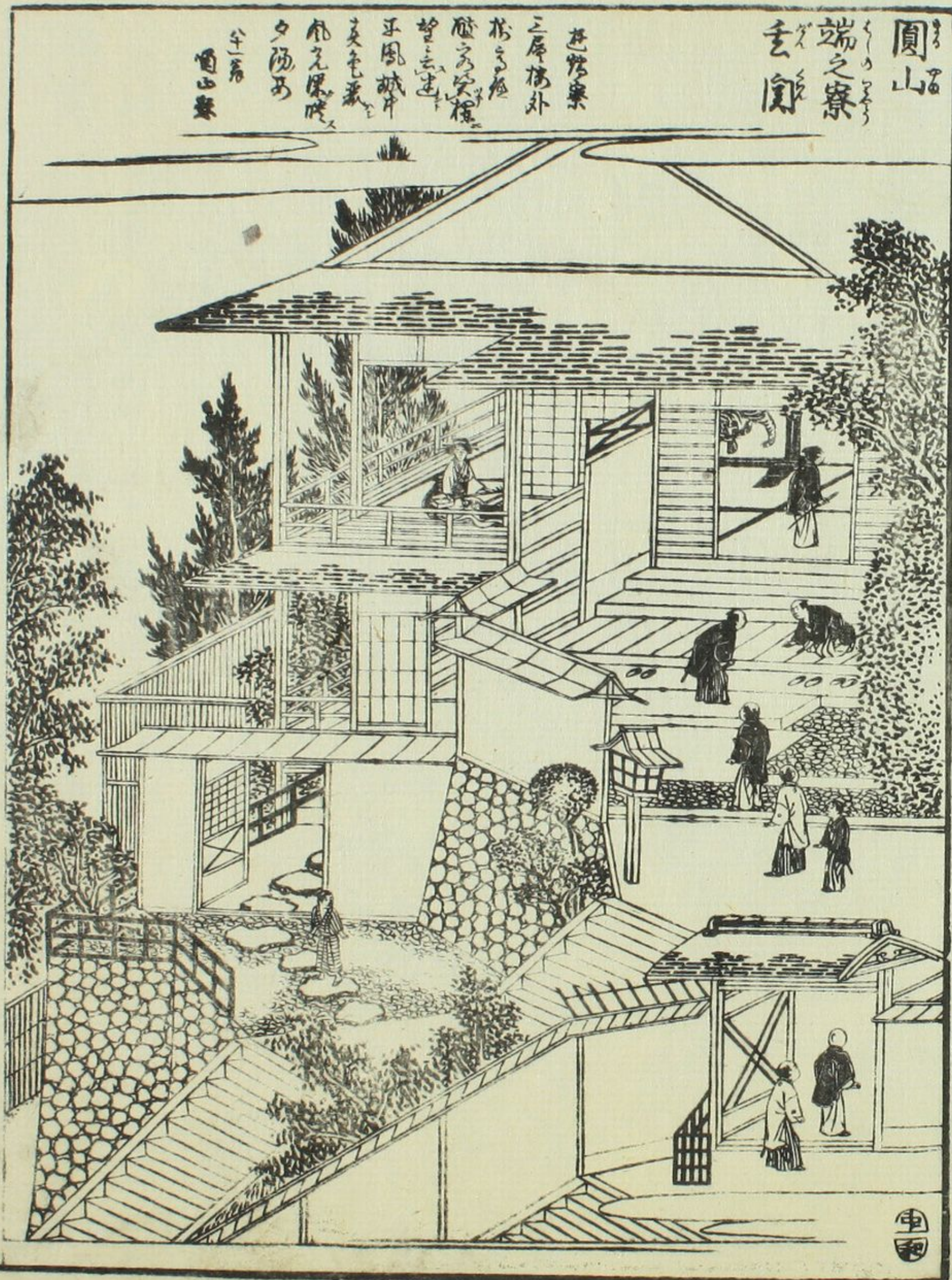
皇太后妍子塚

祇園の東大谷の御蹟と稱し
思ひ女子は塚也
初冬於長樂寺同賦
落葉山中路
高岳相如

長樂寺

本朝文粹
夫長樂寺者形勝之其一也
山頭東嶮望
鷲峯於不退地之前
野西平顧鹿苑於

初冬於長樂寺同賦
落葉山中路
高岳相如



圓山
端之寮
主園

遊樂
三層橋外
松之庭
燈之寮
望之亭
平風城
文毛藏
舟之保
夕陽
圓山寮

無漏界之右于以俗機可斷于以業塵可
消故吾黨占斗藪兮攀登攀合掌兮禮拜
而巳矣于時樹間葉落山中路幽晚霞影
輕漫埋出峽之猿叫曉雨聲冷暗洗在林
之鹿鳴一度澗口以續紛拂岩腹以蕭颯
彼錦窠脆而辭蜀機丹丸碎而謝仙竈
蕪往反杖穿朱買臣之衣隱逸優遊履
葛稚仙之藥遂使結烟之苔鬢半變其青
噴雪之泉脉漸欠其白者也既而世外地
上天中樹前鏘振九條寒嵐傳而響遠鐘
撞三下夜霜和而韻高如予者藥生難秀
雖守槐林之株花報猶芳始到蓮官之砌
請任禪定將離愚癡云爾

茲下園院 雙林の内ありはるハ拾芥抄云左大使尾張定盤の造建
あり又僧西の菴あり寺正十年の縁起文又平康頼入道の山莊
の齋蹟あり平菴談及の菴集に記する又頼阿法師の墓あり
崑玉集に出入り遊年双阿頼阿の古蹟茶華園院とあり居小
遷り先至徳年中阿上人名地の
荒廢の悼と再興に及ぶ



東山
席上
顯圓
應響

山
迴抱

帝州

欄前萬景

在毫頭丹

青天下無

雙手佳麗

東山第

一樓

右
指善端景也
永可親爲實
本會此五字應于其樓

六如庵慈周



端之寮

庭阿弥他

其
貳

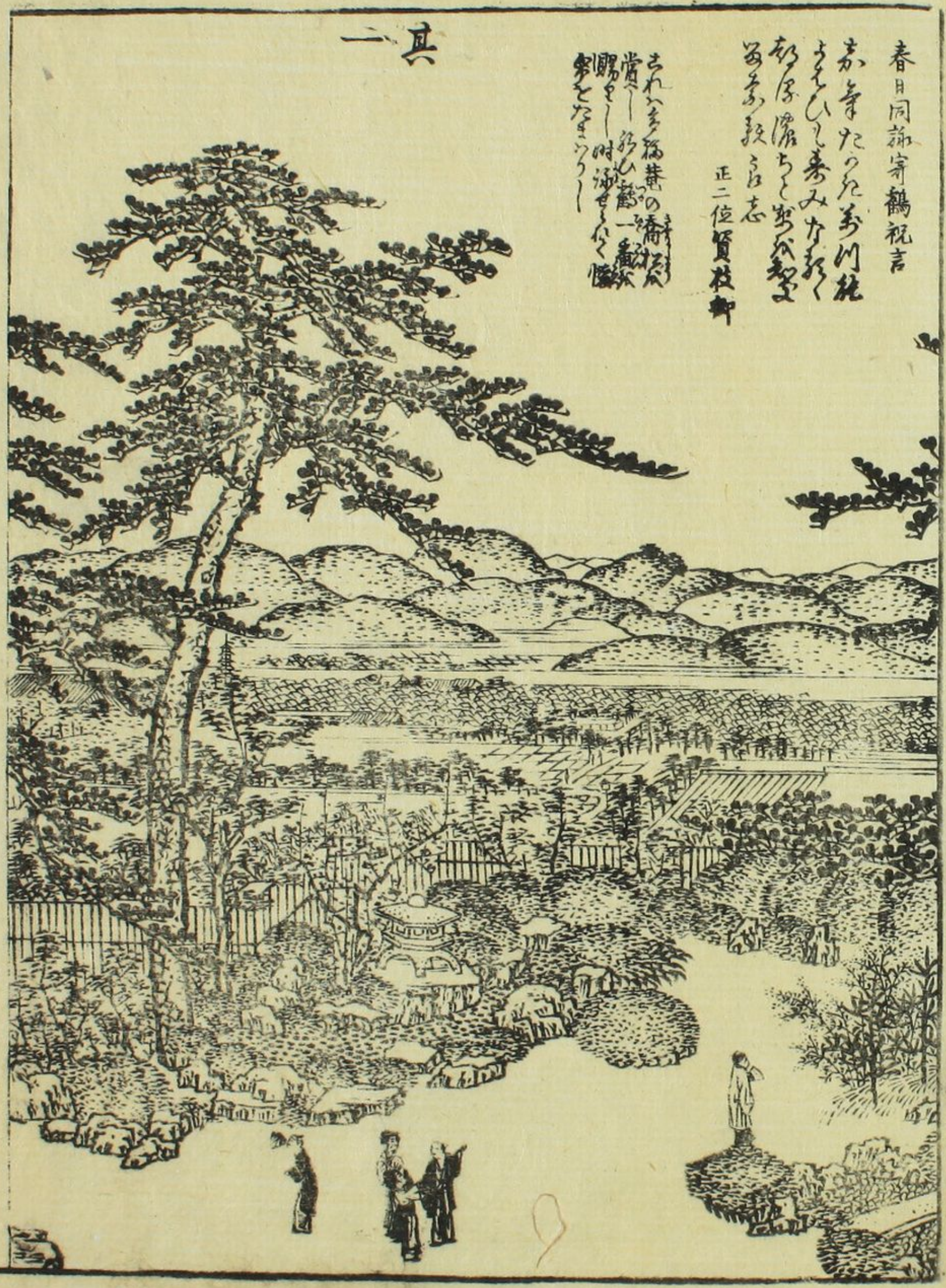
素山
多福菴
也河法
林泉有斐惟

此山素山也
多福菴也
河法也
林泉有斐惟



其二

春日同旅寄鶴祝言
 春をたのむは
 春をたのむは
 春をたのむは
 春をたのむは
 正二位賢枝卿



多福菴

有壁池

其貳



題芳水多福菴

門前芳水澹

巖崖流繞開

庭苔自埋定

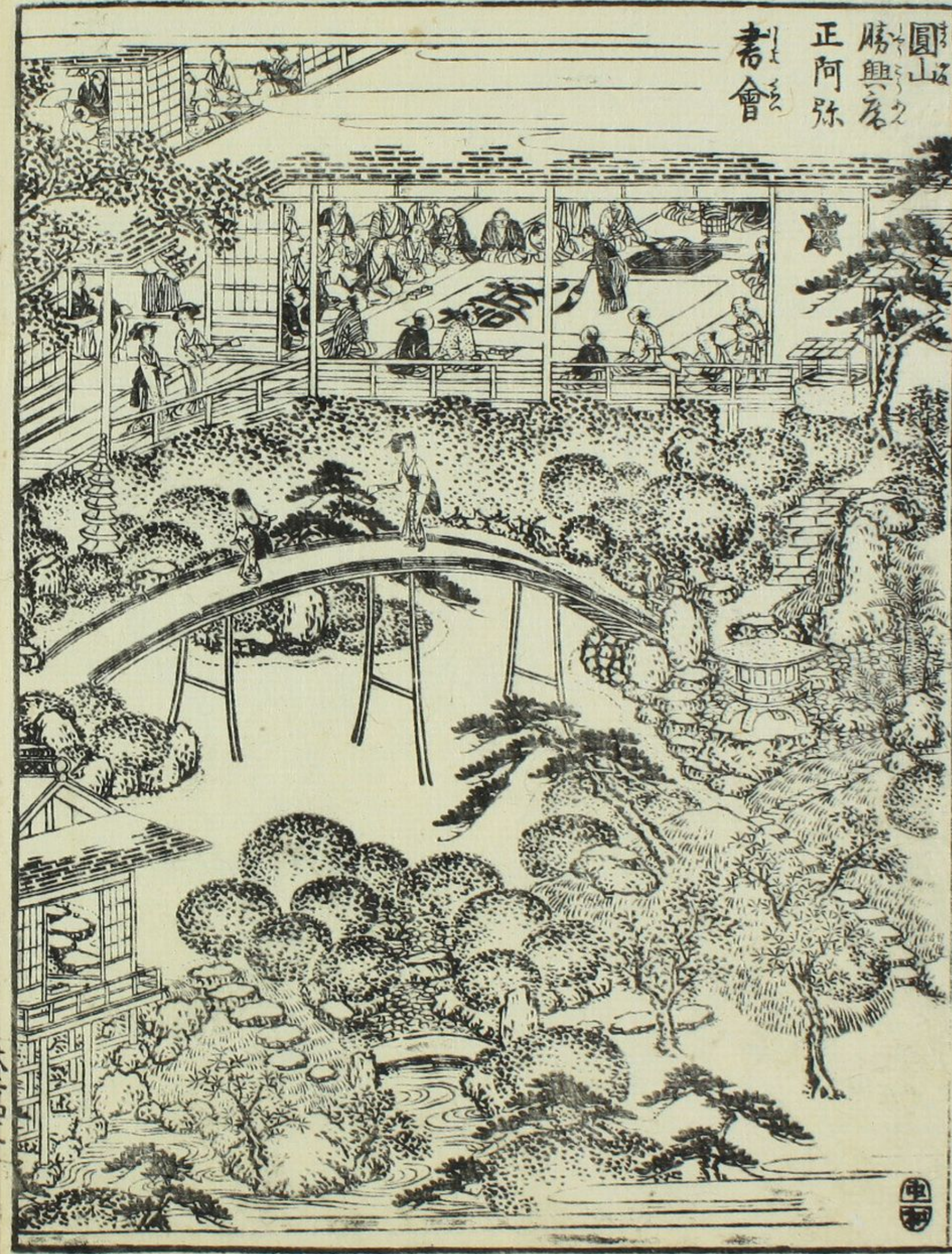
矣菴題多福

宇烟霞雪月

四時佳

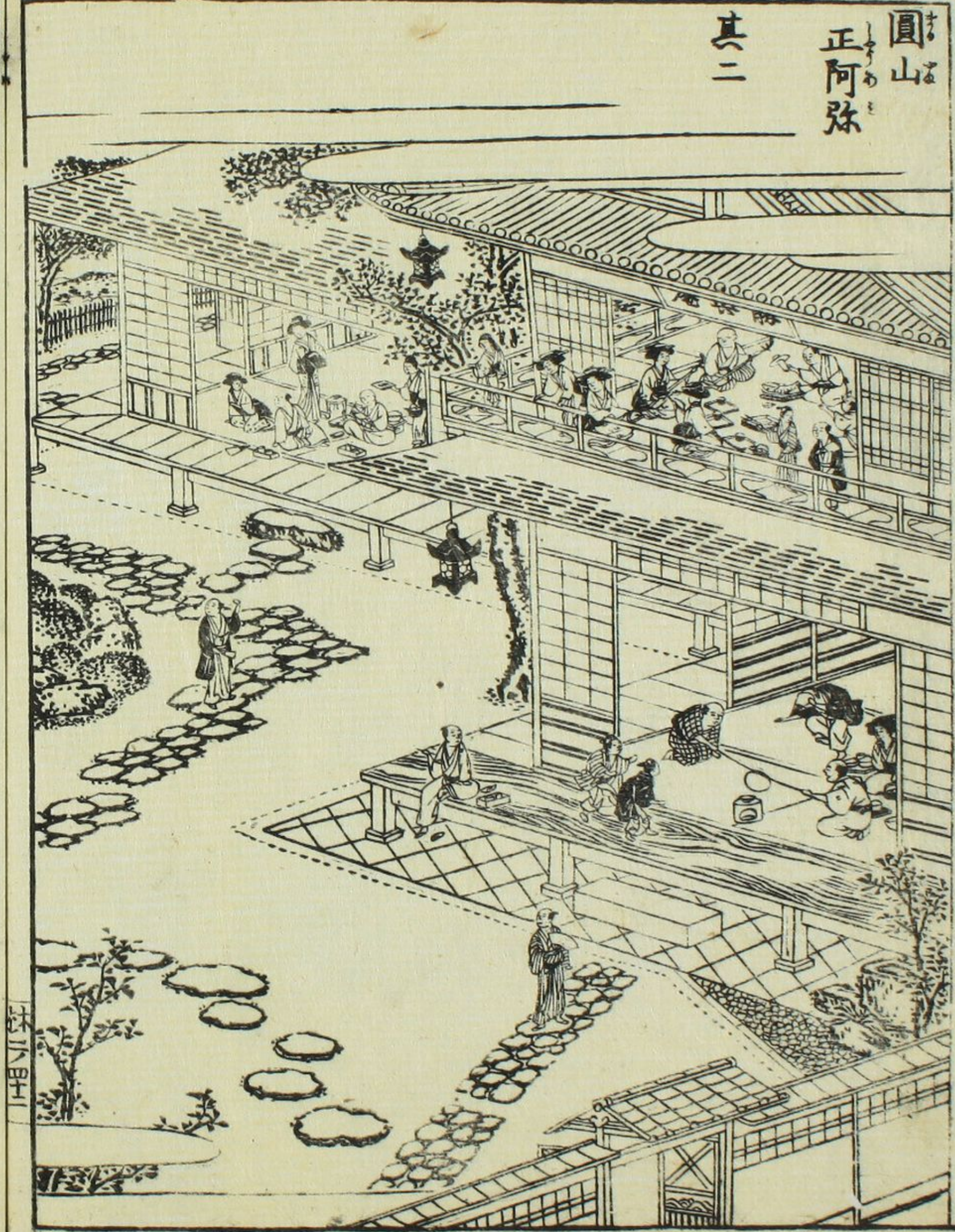
龍公美







我が家
 子の
 庭や
 青の
 針
 正
 志



圓山
 正阿弥
 其二



相合亭の傍々俗

高臺寺
傘亭
亭の天井丸く
傘とちりぢり
まじり

秋過高臺寺見芳宜花
高臺人靜梵王家鳥雀群飛樹外霞
日暮放參鐘絕後秋風推紫鹿鳴花
九日環中禪師邀蕉中和尚及余
遊高臺寺上方余有故不得陪從
後讀其唱和詩有感因賦呈二師
寬政己酉春罹災
鞠爲荒場矣
六如菴

佳賓佳節興佳哉詩爲兼秋更帶哀
百六數歸巴噀火金銀寺化漢地灰
織亭避雨寒吹帽菊水試茶香滿杯
正使空門心不着堪看鹿跡上高臺
寬政己酉春高臺寺罹災
鞠爲荒場矣環中禪師
辛勤重構亡幾殆復舊觀
功亦偉哉
六如菴

巨厦支頤幸有人重榮花木挽回春
唯除林表孤峰色二百年來事々新
六如菴

迷ひてそ並ちかりろと楸外
定非



高臺寺
小方丈



乙卯重九
環中上人邀登
高臺寺山閣
設宴

蕉中禪師
白雲西望夕將沈
綺席留連興轉
深不擬登高能
作賦解言山水
有清音

同賦
環中禪師

登高非微俗
迎賞為林泉
攀閣幽松際
憑欄飛鳥前
暮寒千嶂碧
兩氣萬家烟
遮莫歸期晚
好教初月懸



六十四

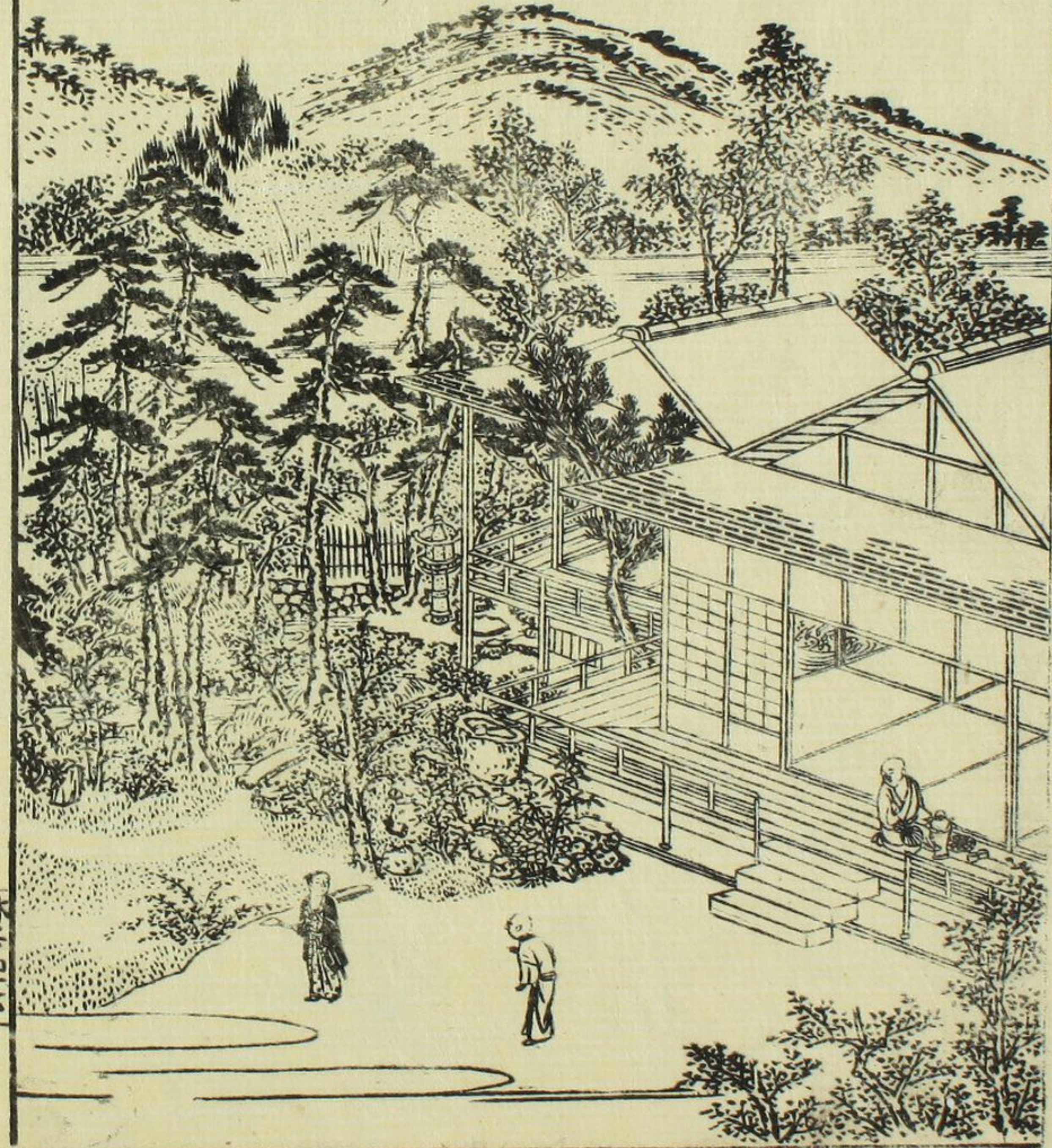
廣州府志

雙林寺
長壽巷

宿葉華院主
月峰之住菴

簷前雨細山添綠
簾外花飛雪散香
况復主人談論妙
忘歸終日醉金觴

龍公美



梅の月
定雅

慈長書庵
秋烟漠々
水冷々
物也清奇
溪上亭
試見天公
存画癖
猫成一幅
翠堆屏
三峯
荷田信輝

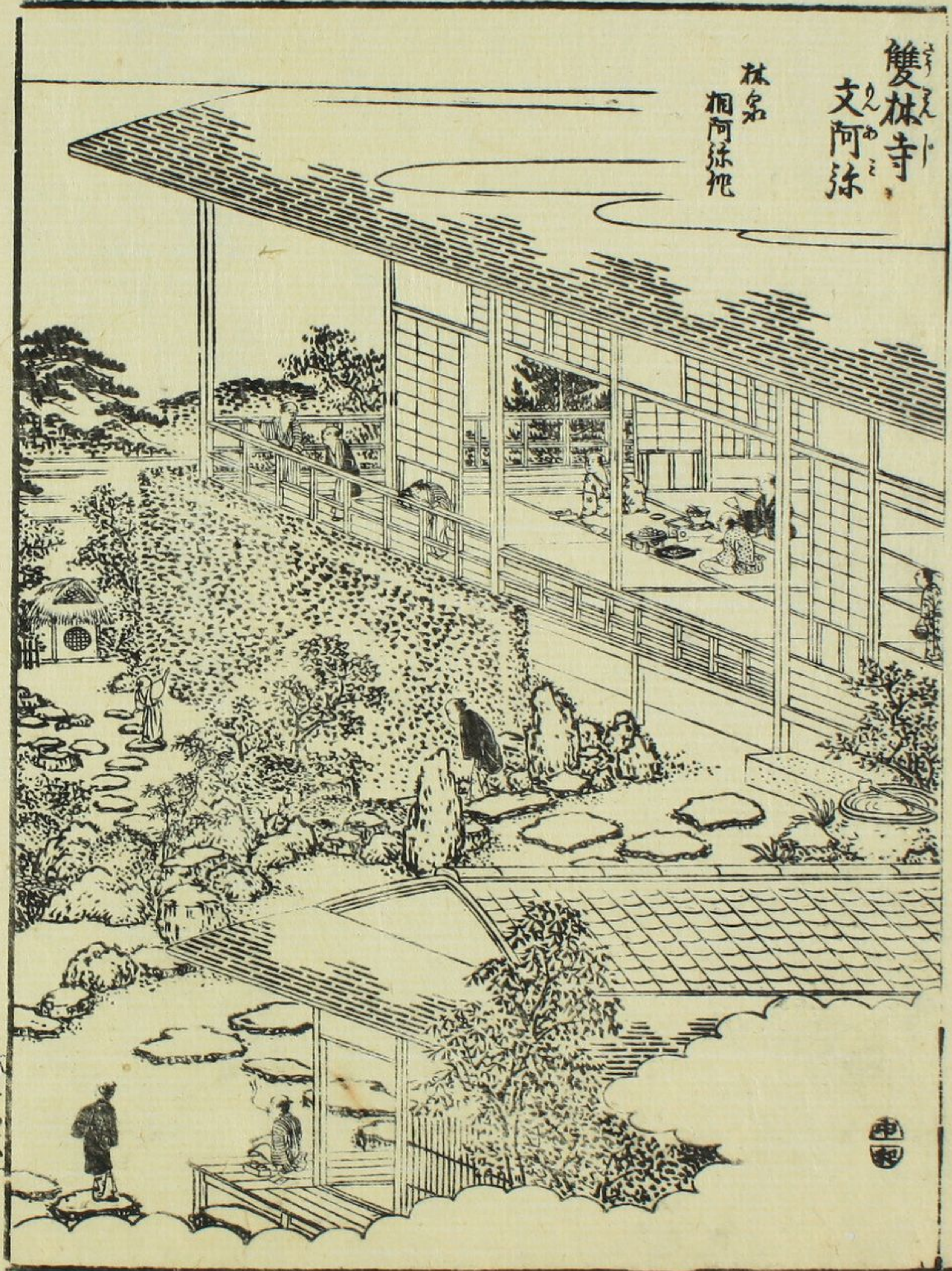




お軍塚と
 君の代や
 將軍塚の
 かんとも
 佐々
 高学

白山嶺

花頂山
將軍塚



雙林寺
 支阿弥

林名
 相阿弥地

中



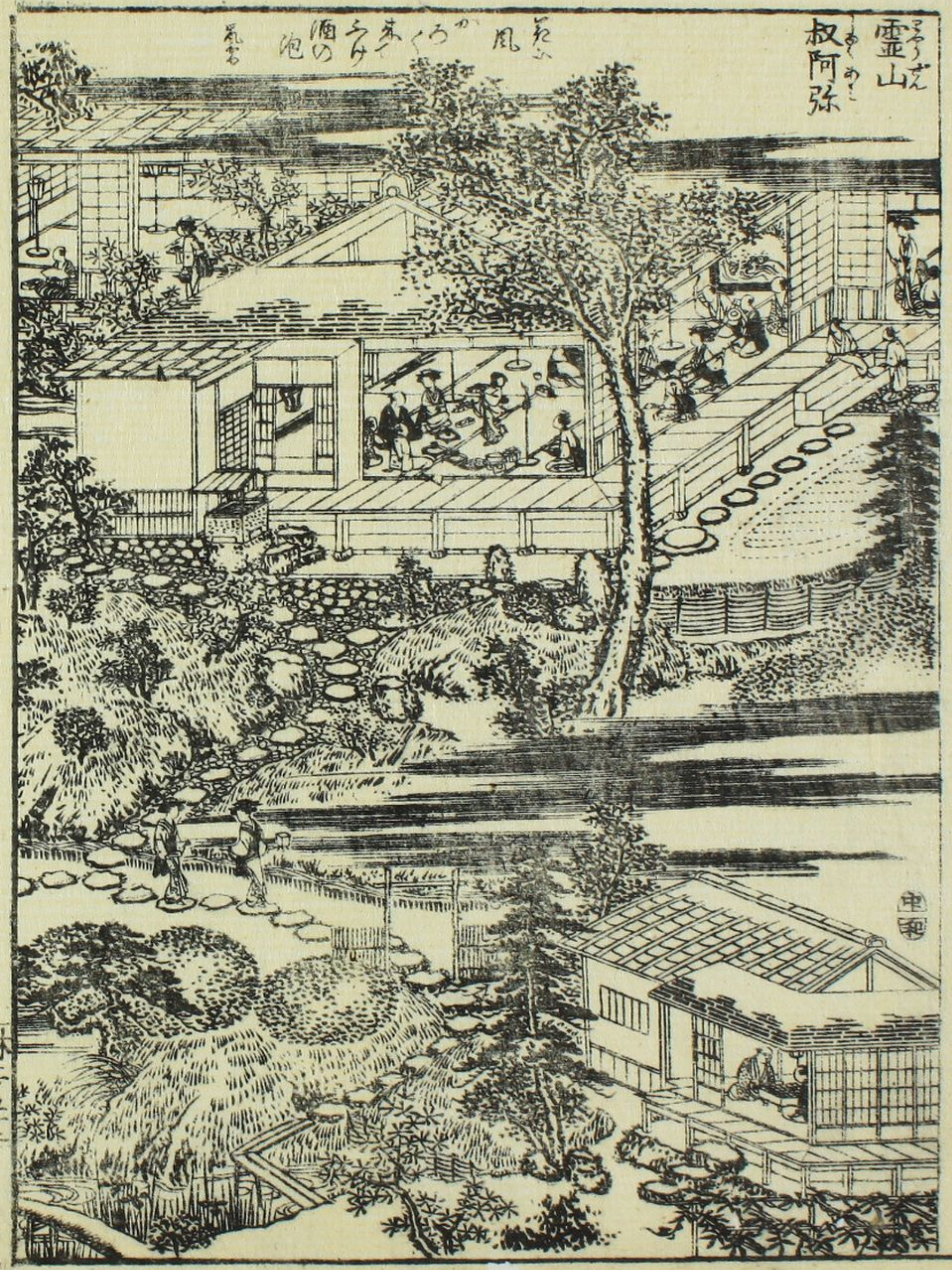
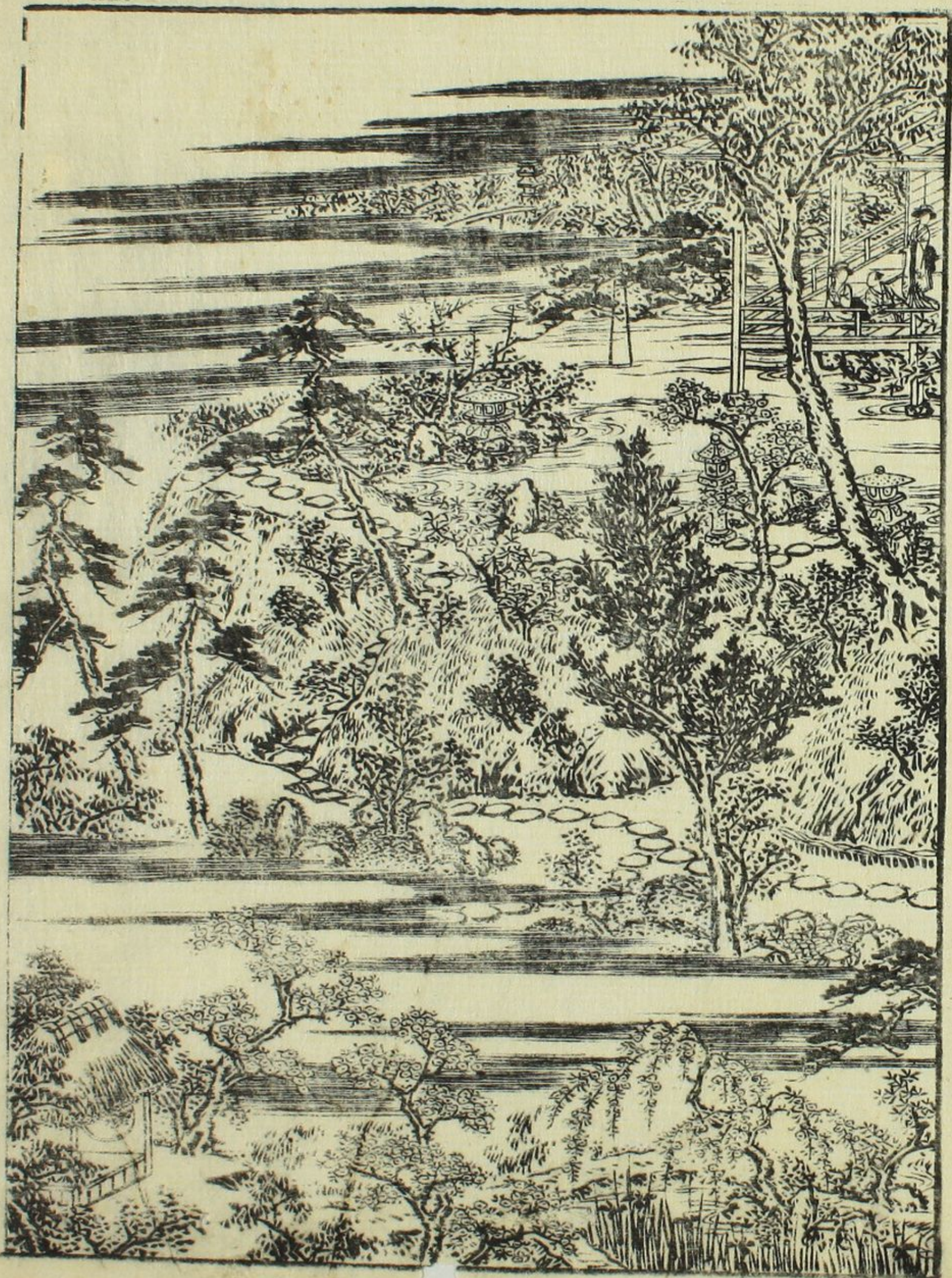
紅の彦
社
新の物や
教
あ



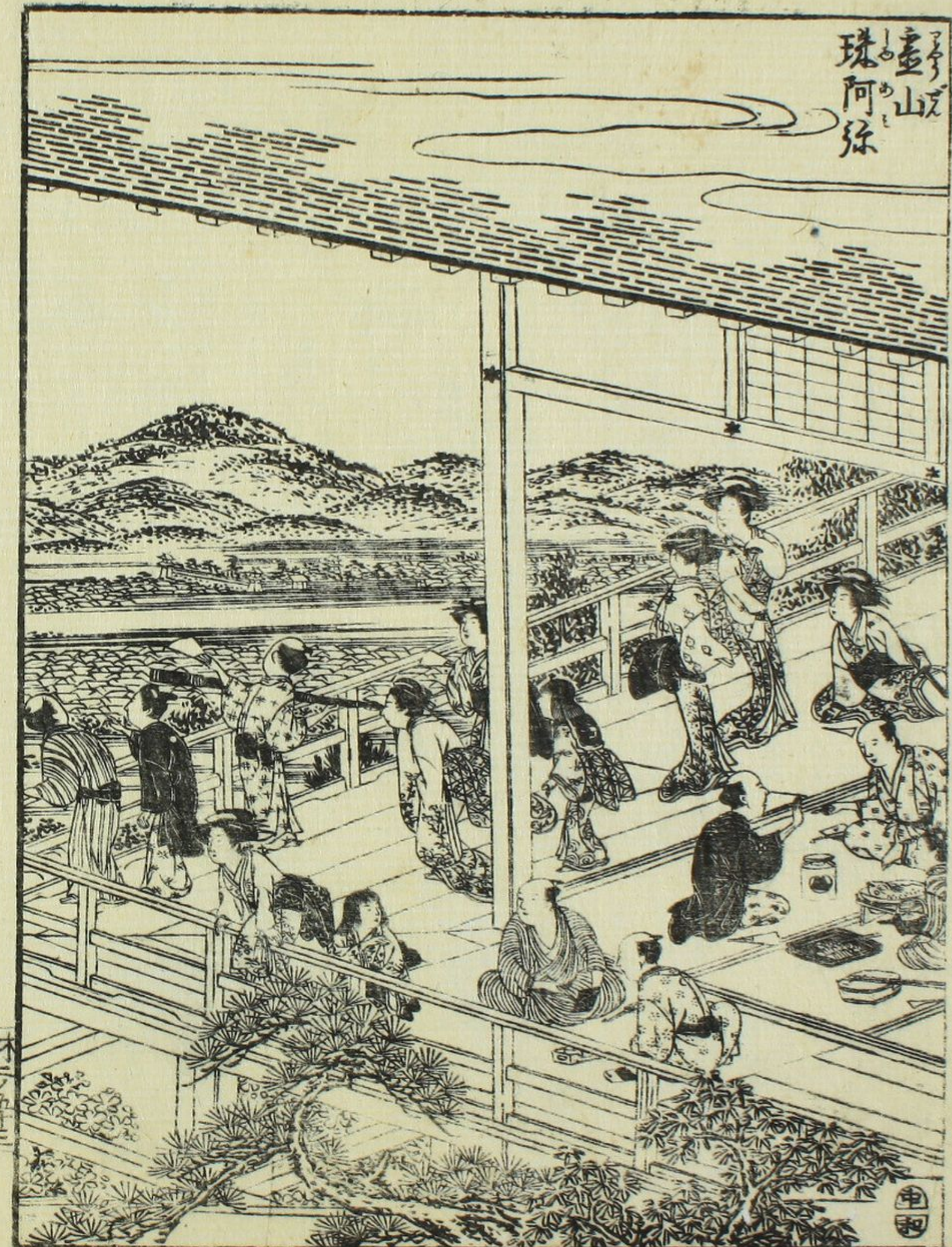
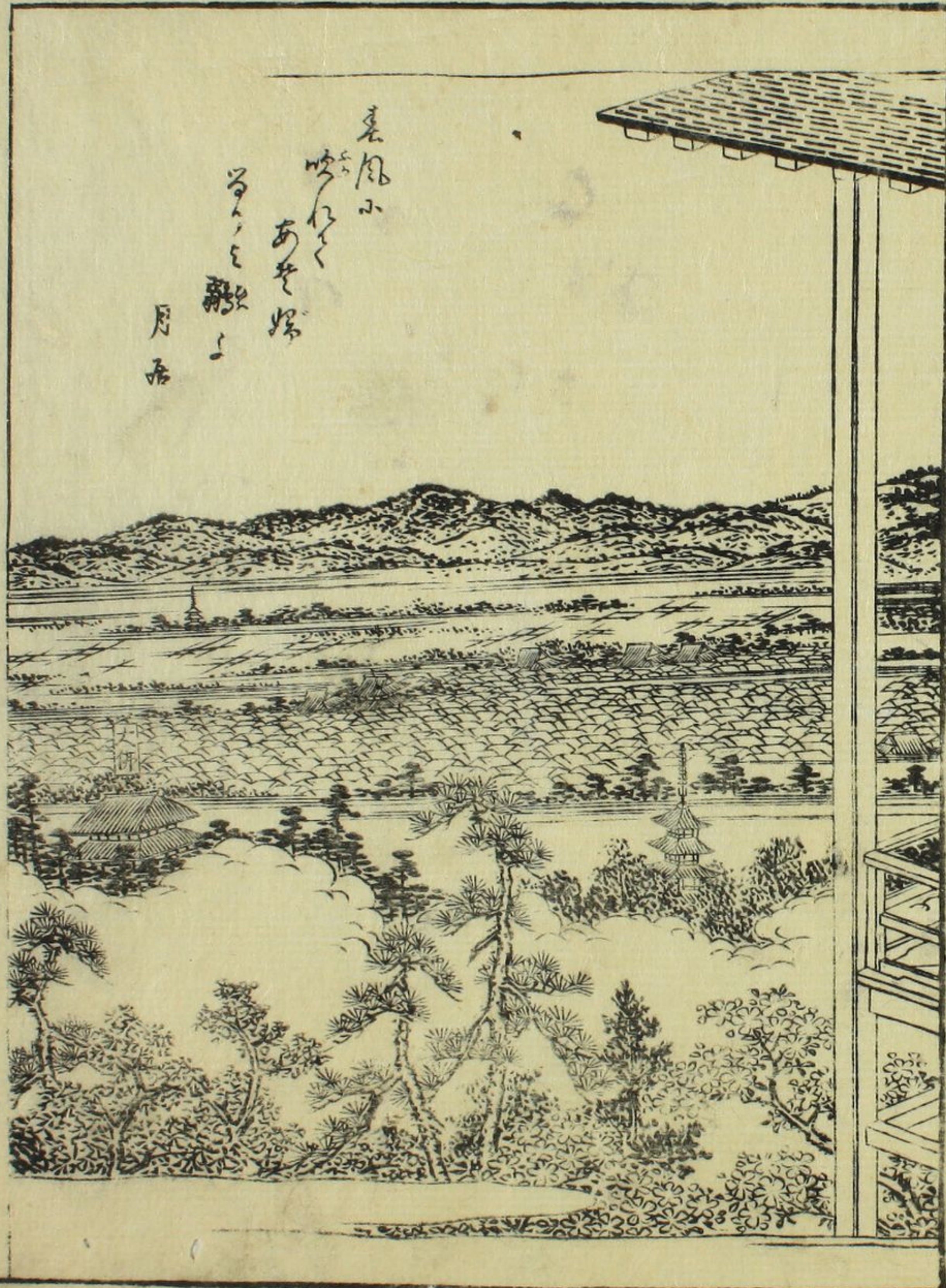
風
まろ
くへ
人形
次

其二

林二五十一



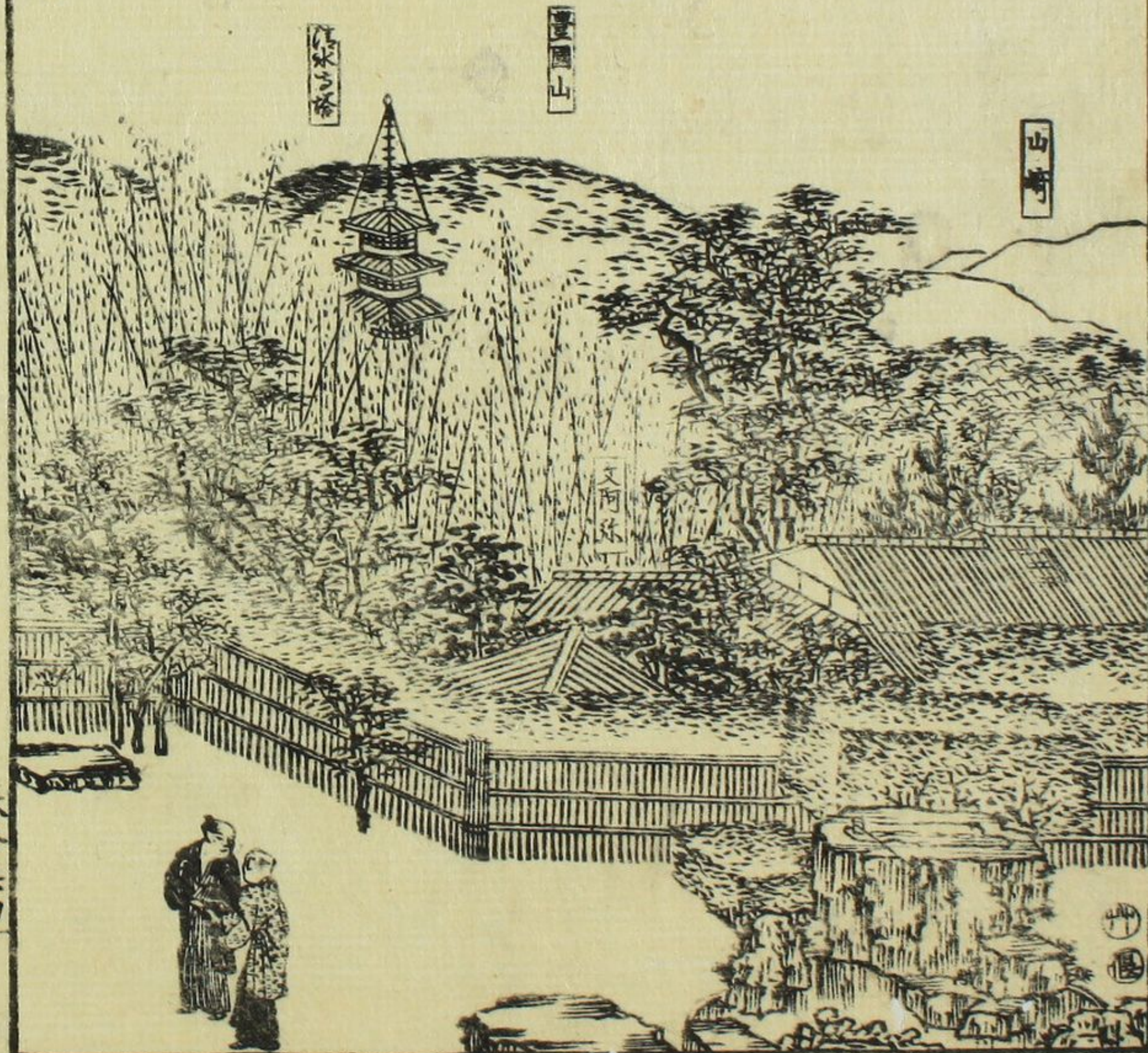
林一五



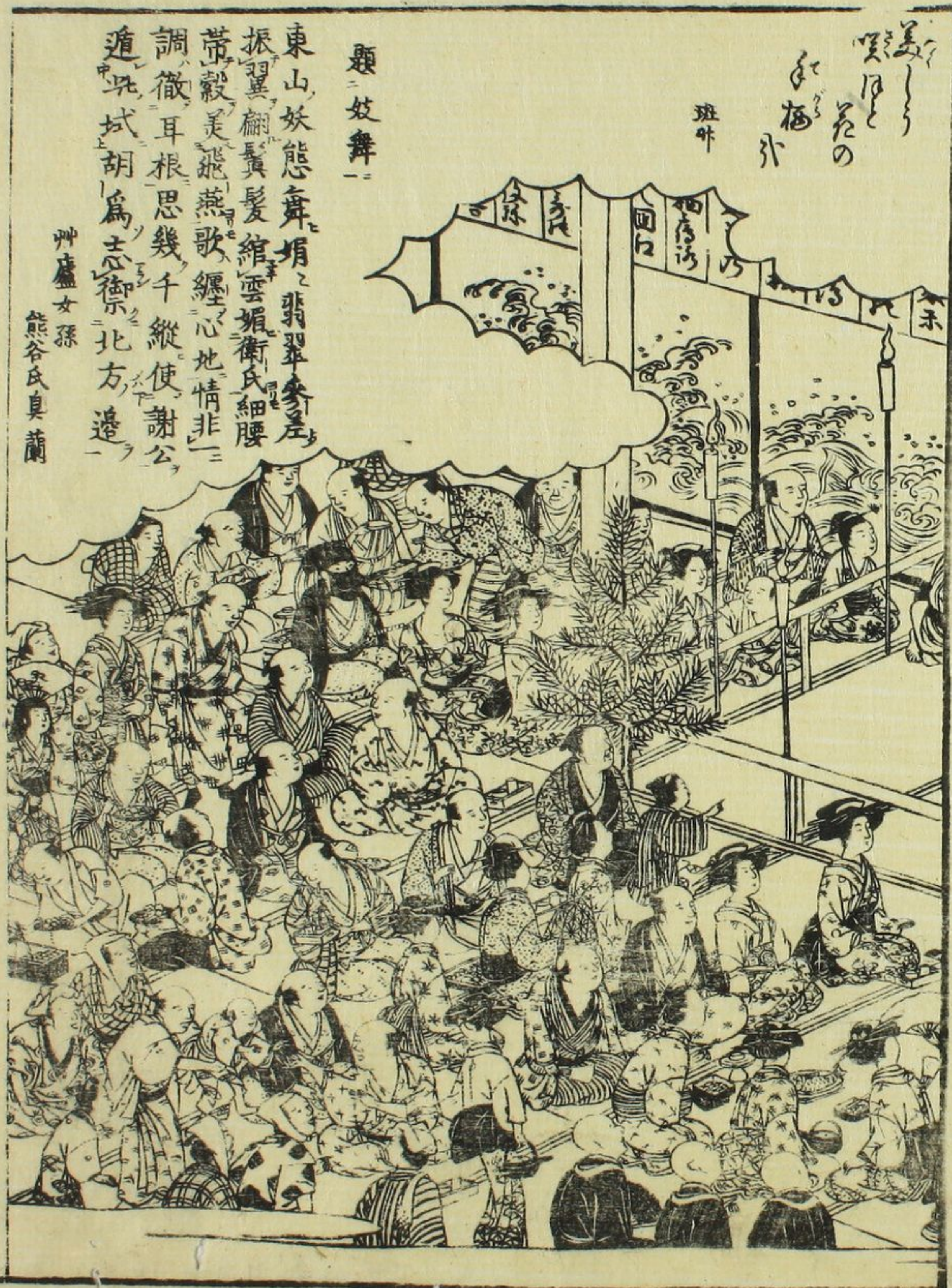
祇園清水
 善
 とありの
 腹
 石
 松



霊山 巖阿弥
 長
 嘯
 楼



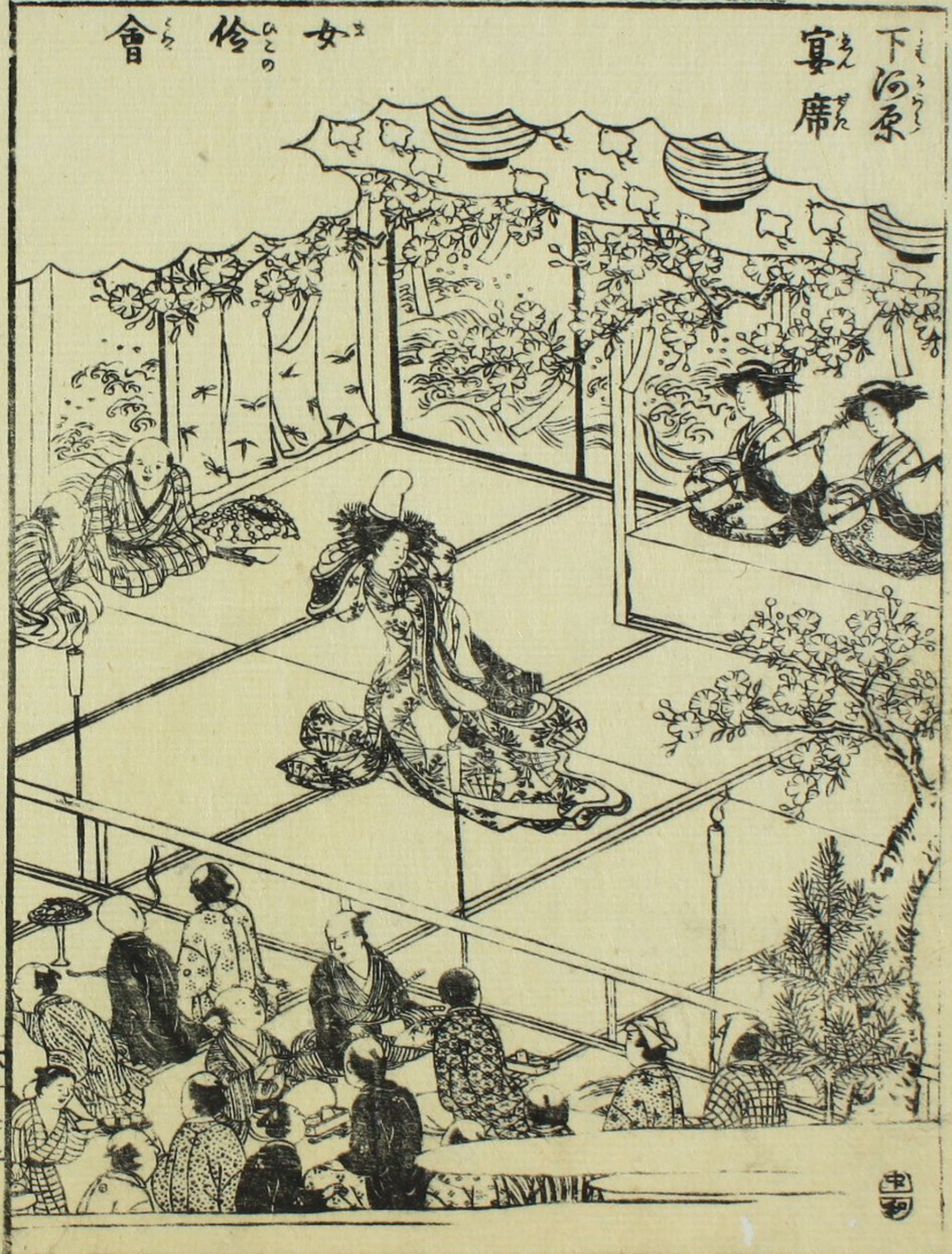
林二幸四



題 妓舞
 東山妖態舞 娟之翡翠參差
 振翼翩鬢髮 縮雲幄衛氏細腰
 帶穀美飛燕歌 纏心地情非
 調徹耳根思幾千 縱使謝公
 道北城胡爲志 德北方邊

洲廬女孫
 熊谷氏貞蘭

美月
 花の
 斑叶
 花



下河原
 宴席

女伶會

林五十五

中

靈山

山頂の寺あり正法寺といふ山徳記云法華二年十一月佛寺七十四箇所
の其一と云藤原兼光靈山に遊人の詩無題詩に及らるれ方拾遺集
及び新撰古今集に見ゆ又
山中長嘯子の宅址あり

東山 冬景 三峯 荷田 信郷

樓閣の雪如塵一様、瑤光望裡新

不是東山謝家妓、婆娑綈袂素裙人 梅華仙

東山 三月 競繁華、紅錦青羅人似花

終日春風吹不落、芬芳腦殺幾千家

系中り吹まよのゆるる糸葉の那
上人の本履紙かきん夕々れ
盃北志をく志月や夕かたみ
大營 竹翁 報士

都林泉名勝圖會卷之貳終

